

令和5年 第19回 宇都宮市教育委員会

付 議 事 件 表

令和5年12月19日

1 審議事項

議案番号	件 名	頁	会議公開 (予定)
議案第36号	宇都宮市立小中学校の通学区域に関する規則の一部改正	1	○

2 報告事項

議案番号	件 名	頁	会議公開 (予定)
報告第60号	令和5年12月議会一般質問の概要について	2	○
報告第61号	教育行政相談の内容と対応について	3	×
報告第62号	学校等事件・事故について	4	×

3 その他

(1)	令和5年度教育支援者感謝状贈呈式の結果について	資料	○
(2)	第25回うつのみやジュニア芸術祭の結果について	資料	○
(3)	第37回宇都宮マラソン大会の結果について	資料	○
(4)	第61回市民スポーツ大会の結果について	資料	○

議案第 3 6 号

宇都宮市立小中学校の通学区域に関する規則の一部改正

宇都宮市立小中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則を次のように制定する。

令和 5 年 1 2 月 1 9 日提出

宇都宮市教育委員会

教育長 小堀 茂雄

宇都宮市立小中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則

宇都宮市立小中学校の通学区域に関する規則（昭和 5 8 年教育委員会規則第 7 号）の一部を次のように改正する。

別表第 1 号小学校の表宇都宮市立峰小学校の項を次のように改める。

宇都宮市立峰 小学校	泉が丘 1 丁目の一部，東今泉 1 丁目，東今泉 2 丁目，東峯町の一部，東峰 1 丁目の一部，平松町の一部，平松本町の一部，平松 1 丁目の一部，平松 2 丁目，平松 3 丁目の一部，平松 4 丁目の一部，峯町，峰 1 丁目の一部，峰 2 丁目，峰 3 丁目，峰 4 丁目
---------------	---

同表宇都宮市立石井小学校の項を次のように改める。

宇都宮市立石 井小学校	石井町，問屋町，東峯町の一部，東峰 1 丁目の一部，東峰 2 丁目，平松 4 丁目の一部
----------------	--

同表宇都宮市立横川東小学校の項を次のように改める。

宇都宮市立横 川東小学校	東築瀬 1 丁目の一部，下栗町の一部，下栗 1 丁目の一部，平松本町の一部，平松 1 丁目の一部，平松 3 丁目の一部
-----------------	---

別表第 2 号中学校の表宇都宮市立陽東中学校の項を次のように改める。

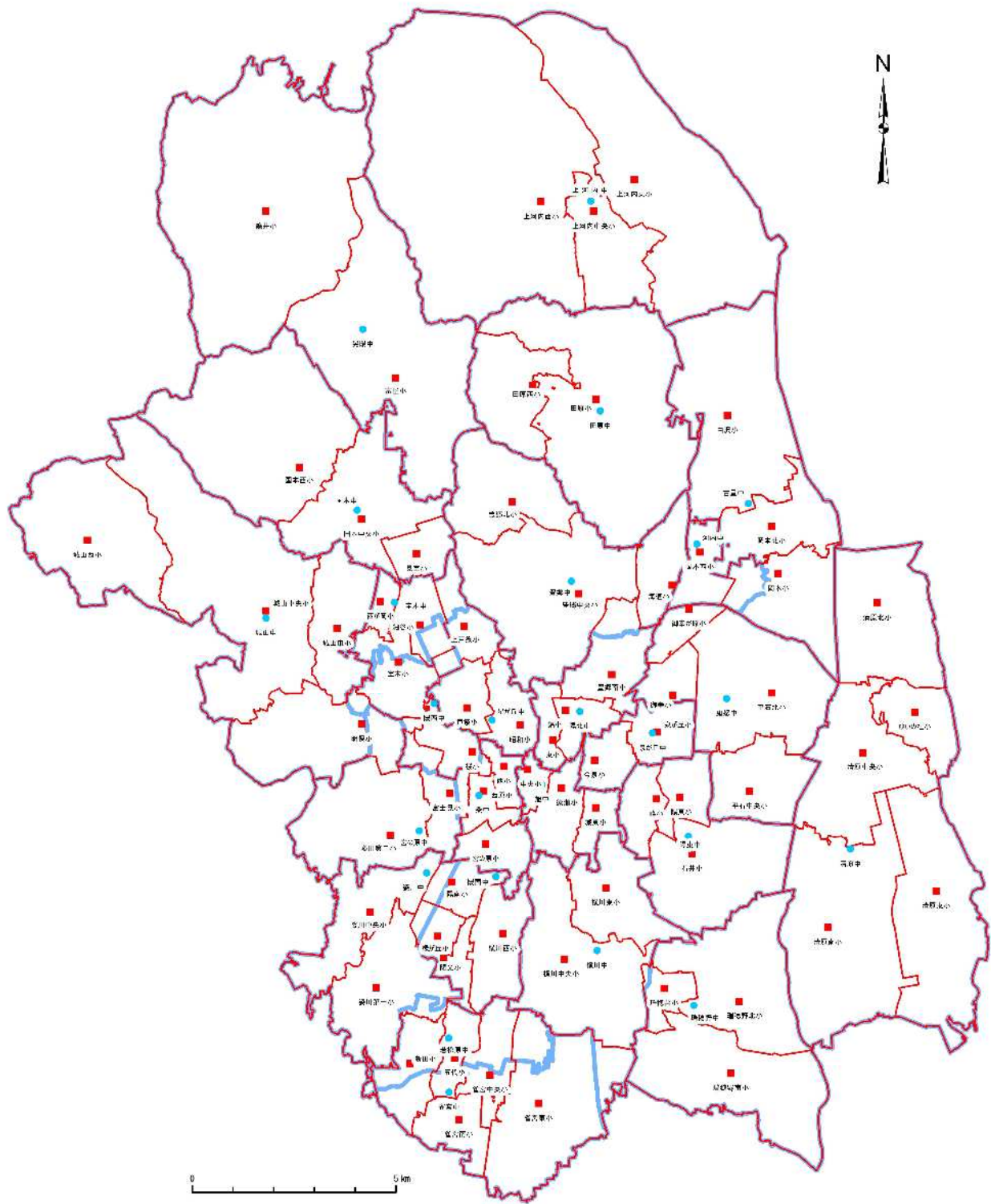
宇都宮市立陽 東中学校	石井町，泉が丘 1 丁目の一部，問屋町，中久保 1 丁目の一部，中久保 2 丁目の一部，東今泉 1 丁目，東今泉 2 丁目，東峯町，東峰 1 丁目，東峰 2 丁目，平出町の一部，平出工業団地の一部，平松町の一部，平松本町の一部，平松 1 丁目の一部，平松 2 丁目，平松 3 丁目の一部，平松 4 丁目，峯町，峰 1 丁目の一部，峰 2 丁目，峰 3 丁目，峰 4 丁目，陽東 1 丁目，陽東 2 丁目，陽東 3 丁目，陽東 4 丁目，陽東 5 丁目，陽東 6 丁目，陽東 7 丁目，陽東 8 丁目
----------------	---

同表宇都宮市立横川中学校の項を次のように改める。

宇都宮市立横 川中学校	上桑島町の一部，上横田町の一部，川田町の一部，さるやま町の一部，東築瀬 1 丁目の一部，下栗町の一部，下栗 1 丁目
----------------	--

	の一部，下桑島町の一部，砂田町，東横田町，平松本町の一部，平松 1 丁目の一部，平松 3 丁目の一部，屋板町，西刑部町の一部，東谷町の一部，インターパーク 1 丁目，インターパーク 2 丁目，インターパーク 3 丁目，インターパーク 4 丁目，インターパーク 5 丁目，インターパーク 6 丁目
--	---

別図を次のように改める。



## 附 則

この規則は、宇都宮大学東南部第1土地区画整理事業の換地処分に係る栃木県知事の公告があった日の翌日から施行する。ただし、別図の改正規定は、公布の日から施行する。

## (提案の理由)

市内の一部地域の住居表示変更等に伴い、規則の改正を行うものであります。

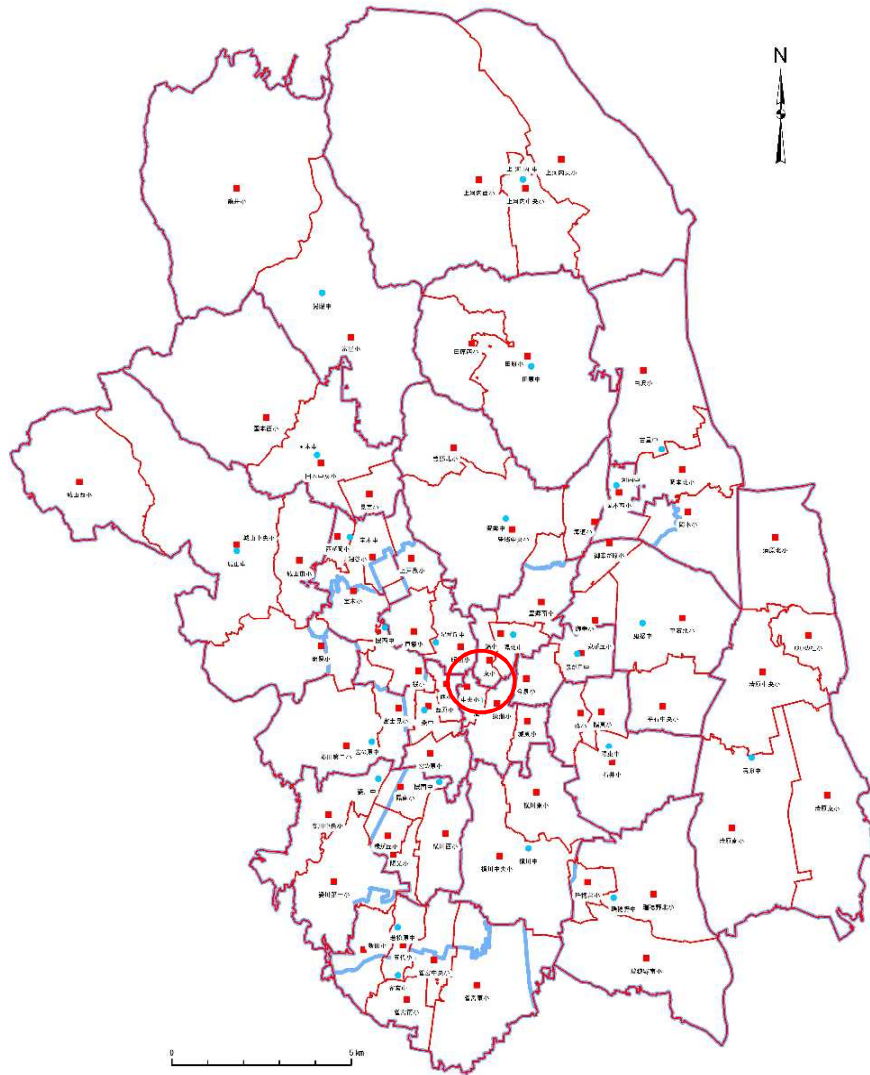
宇都宮市立小中学校の通学区域に関する規則の一部改正

別表（第3条関係）

別表の項	改正後	改正前
宇都宮市立峰小学校	泉が丘1丁目の一部，東今泉1丁目，東今泉2丁目，東峯町の一部， <u>東峰1丁目の一部</u> ，平松町の一部，平松本町の一部， <u>平松1丁目の一部</u> ， <u>平松2丁目</u> ， <u>平松3丁目の一部</u> ， <u>平松4丁目の一部</u> ，峯町，峰1丁目の一部，峰2丁目，峰3丁目，峰4丁目	泉が丘1丁目の一部，東今泉1丁目，東今泉2丁目，東峯町の一部，平松町の一部，平松本町の一部，峯町，峰1丁目の一部，峰2丁目，峰3丁目，峰4丁目
宇都宮市立石井小学校	石井町，問屋町，東峯町の一部， <u>東峰1丁目の一部</u> ， <u>東峰2丁目</u> ， <u>平松4丁目の一部</u>	石井町，問屋町，東峯町の一部，東峰1丁目の一部，東峰2丁目，平松4丁目の一部
宇都宮市立横川東小学校	東築瀬1丁目的一部分，下栗町の一部，下栗1丁目的一部分，平松本町の一部， <u>平松1丁目的一部分</u> ， <u>平松3丁目的一部分</u>	東築瀬1丁目的一部分，下栗町的一部分，下栗1丁目的一部分，平松本町的一部分
宇都宮市立陽東中学校	石井町，泉が丘1丁目的一部分，問屋町，中久保1丁目的一部分，中久保2丁目的一部分，東今泉1丁目，東今泉2丁目，東峯町， <u>東峰1丁目</u> ， <u>東峰2丁目</u> ，平出町的一部分，平出工業団地的一部分，平松町的一部分，平松本町的一部分， <u>平松1丁目的一部分</u> ， <u>平松2丁目</u> ， <u>平松3丁目的一部分</u> ， <u>平松4丁目</u> ，峯町，峰1丁目的一部分，峰2丁目，峰3丁目，峰4丁目，陽東1丁目，陽東2丁目，陽東3丁目，陽東4丁目，陽東5丁目，陽東6丁目，陽東7丁目，陽東8丁目	石井町，泉が丘1丁目的一部分，問屋町，中久保1丁目的一部分，中久保2丁目的一部分，東今泉1丁目，東今泉2丁目，東峯町，平出町的一部分，平出工業団地的一部分，平松町的一部分，平松本町的一部分，峯町，峰1丁目的一部分，峰2丁目，峰3丁目，峰4丁目，陽東1丁目，陽東2丁目，陽東3丁目，陽東4丁目，陽東5丁目，陽東6丁目，陽東7丁目，陽東8丁目
宇都宮市立横川中学校	上桑島町的一部分，上横田町的一部分，川田町的一部分，さるやま町的一部分，東築瀬1丁目的一部分，下栗町的一部分，下栗1丁目的一部分，下桑島町的一部分，砂田町，東横田町，平松本町的一部分， <u>平松1丁目的一部分</u> ， <u>平松3丁目的一部分</u> ，屋板町，西刑部町的一部分，東谷町的一部分，インターパーク1丁目，インターパーク2丁目，インターパーク3丁目，インターパーク4丁目，インターパーク5丁目，インターパーク6丁目	上桑島町的一部分，上横田町的一部分，川田町的一部分，さるやま町的一部分，東築瀬1丁目的一部分，下栗町的一部分，下栗1丁目的一部分，下桑島町的一部分，砂田町，東横田町，平松本町的一部分，屋板町，西刑部町的一部分，東谷町的一部分，インターパーク1丁目，インターパーク2丁目，インターパーク3丁目，インターパーク4丁目，インターパーク5丁目，インターパーク6丁目

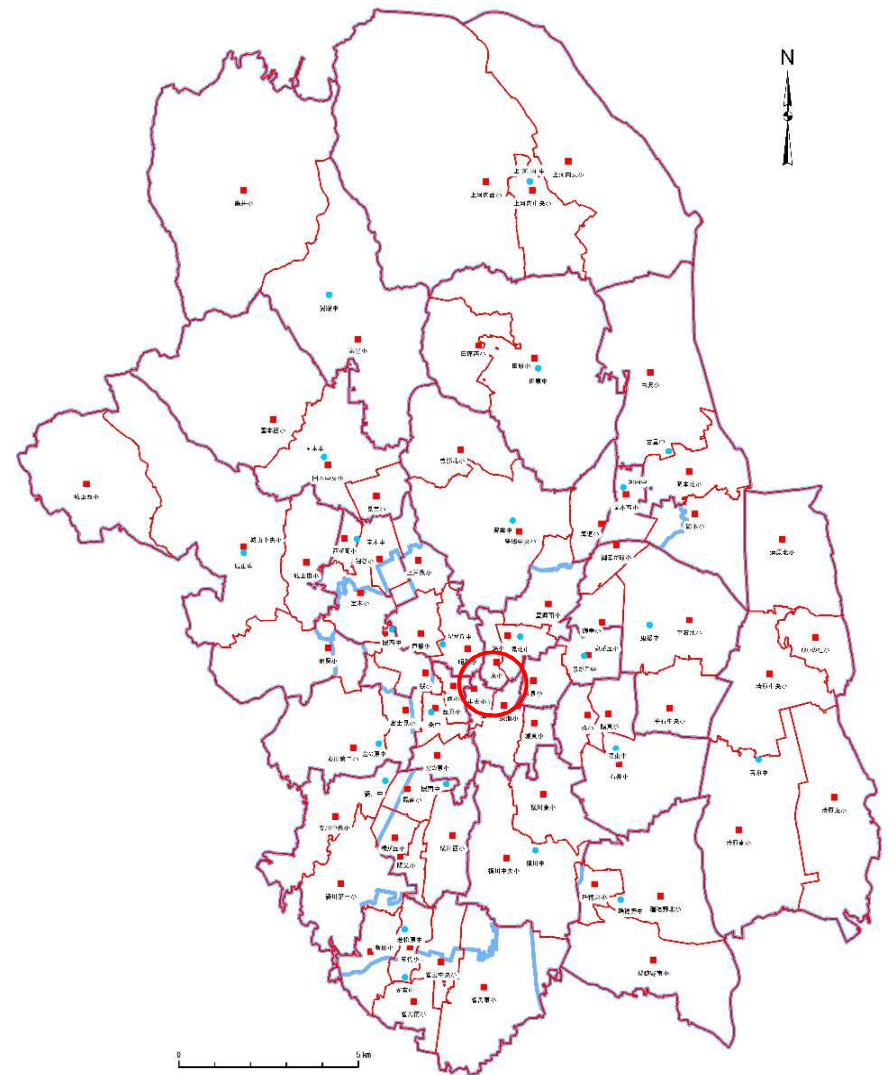
改正後

別図



改正前

別図



## 宇都宮市立小中学校の通学区域に関する規則の一部改正について

### 1 制定の理由

宇都宮大学東南部第1土地区画整理事業施行区域の住居表示実施に伴い、関係する小学校及び中学校の通学区域の一部改正を行うとともに、馬場通り4丁目における自治会区域の変更に伴い、関係する小学校及び中学校の通学区域の変更を行おうとするもの

### 2 改正の内容

#### (1) 町名の追加（参考資料3-1）

宇都宮大学東南部第1土地区画整理事業施行区域の住居表示実施により、施行区域内の「石井町，東峰町，平松本町，峰町」の町名が「平松1～4丁目，東峰1丁目，2丁目」に変わることから，次の小学校及び中学校の通学区域について，変更された町名を追加する。

小中学校名	追加する町名
峰小学校	平松1丁目の一部，平松2丁目，平松3丁目の一部，平松4丁目の一部，東峰1丁目の一部
石井小学校	東峰1丁目の一部，東峰2丁目，平松4丁目の一部
横川東小学校	平松1丁目の一部，平松3丁目の一部
陽東中学校	東峰1丁目，東峰2丁目，平松1丁目の一部，平松2丁目，平松3丁目の一部，平松4丁目
横川中学校	平松1丁目の一部，平松3丁目の一部

#### (2) 通学区域の変更（別図の改正）（参考資料3-2）

馬場通り4丁目地内の一部において，マンション建設を契機に当該エリアが千手町自治会（中央小・旭中学区）から宮島町自治会（東小・陽北中学区）に変更になった。当該エリアの学区は，自治会線を基に設定していることから，自治会線に合わせて学区を東小・陽北中学区となるよう変更する。

### 3 施行期日

(1)は宇都宮大学東南部第1土地区画整理事業の換地処分に係る栃木県知事の公告があった日の翌日

(2)は，公布の日

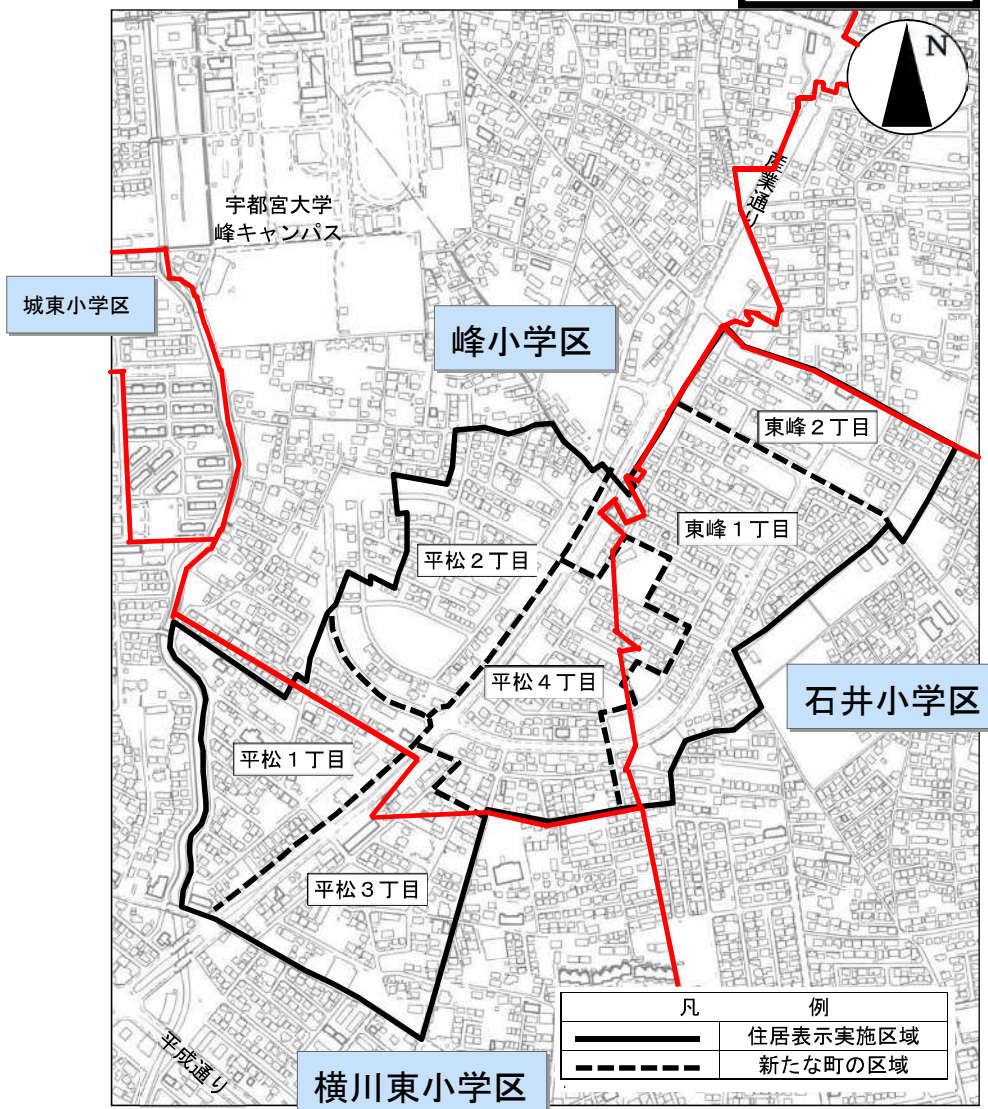


【参考資料】宇都宮大学東南部第1土地区画整理事業関係

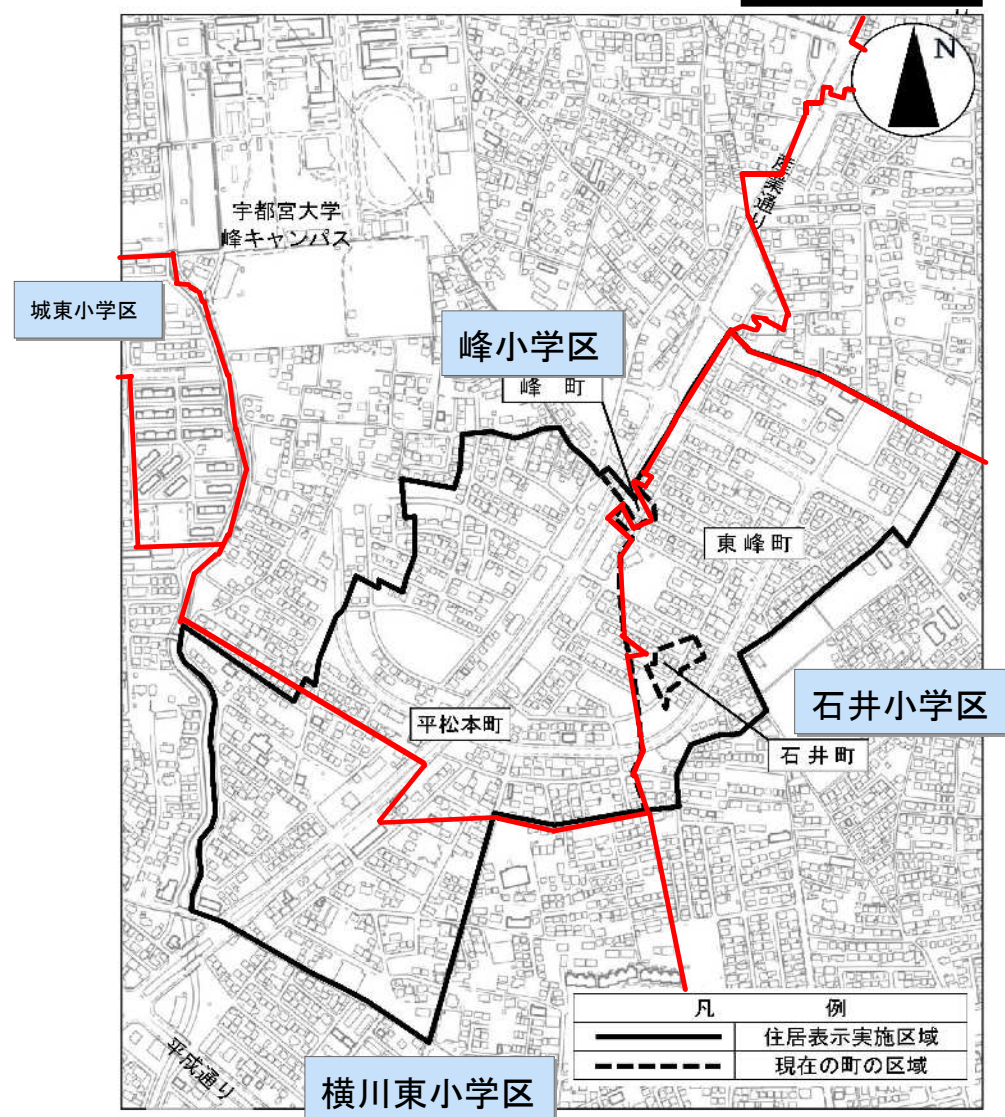
議案第36号  
参考資料3-1

— 小学校学区線

住居表示実施後

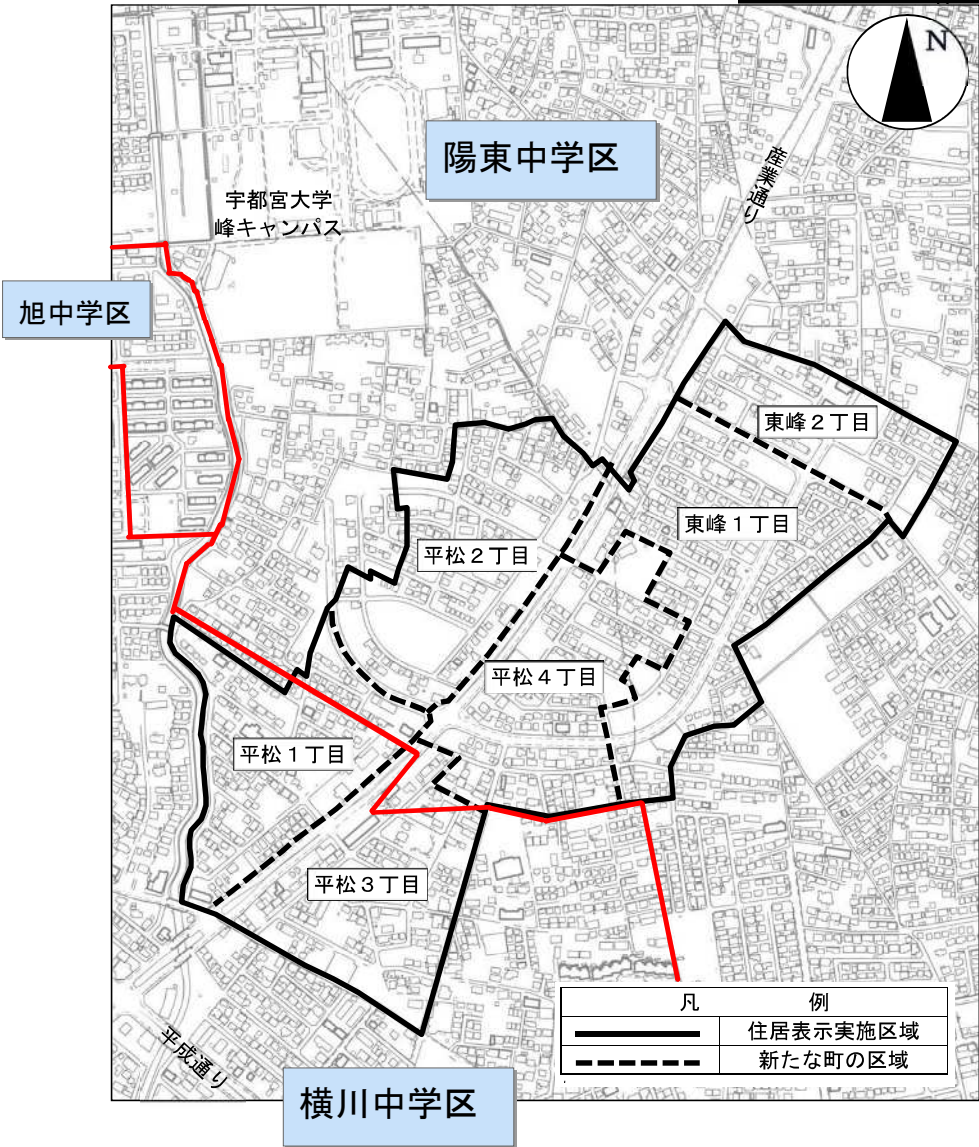


住居表示実施前

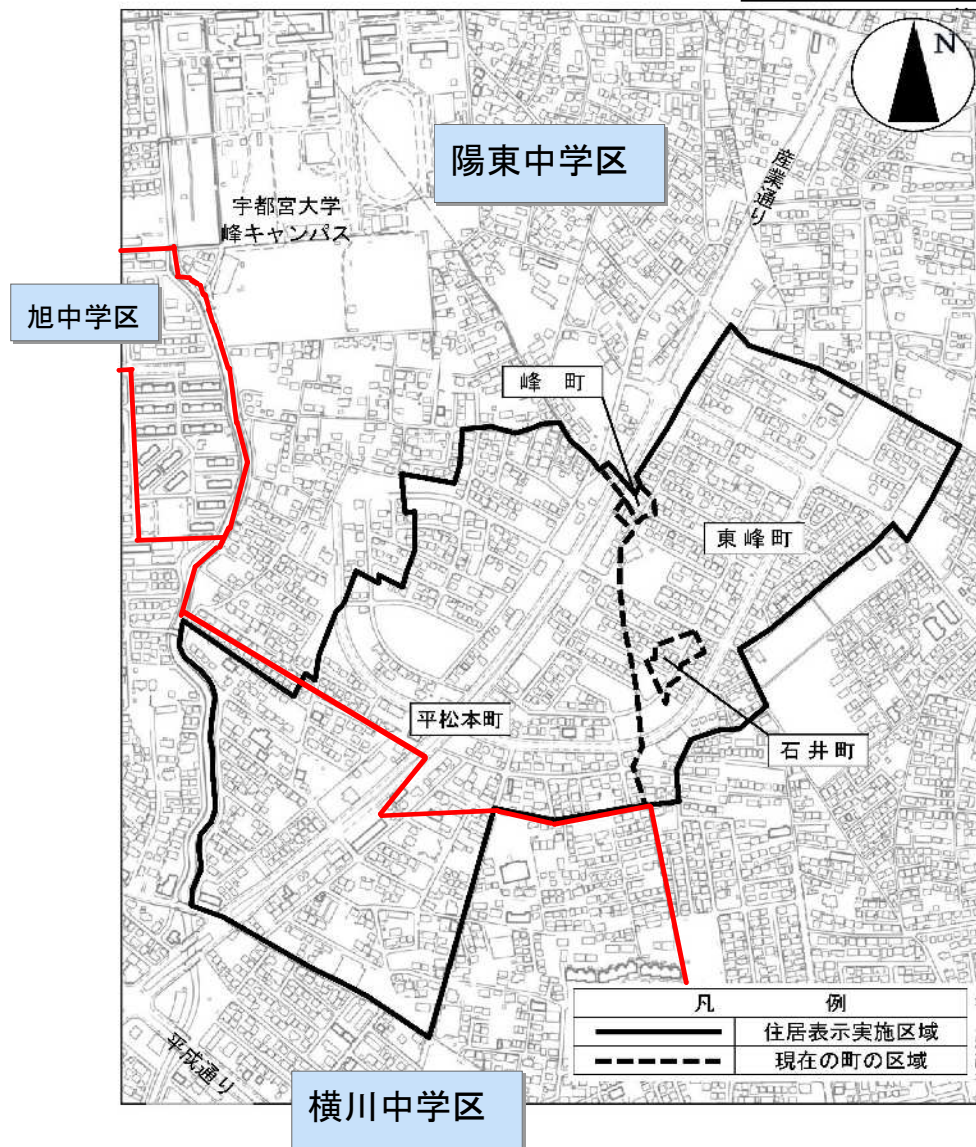


— 中学校学区線

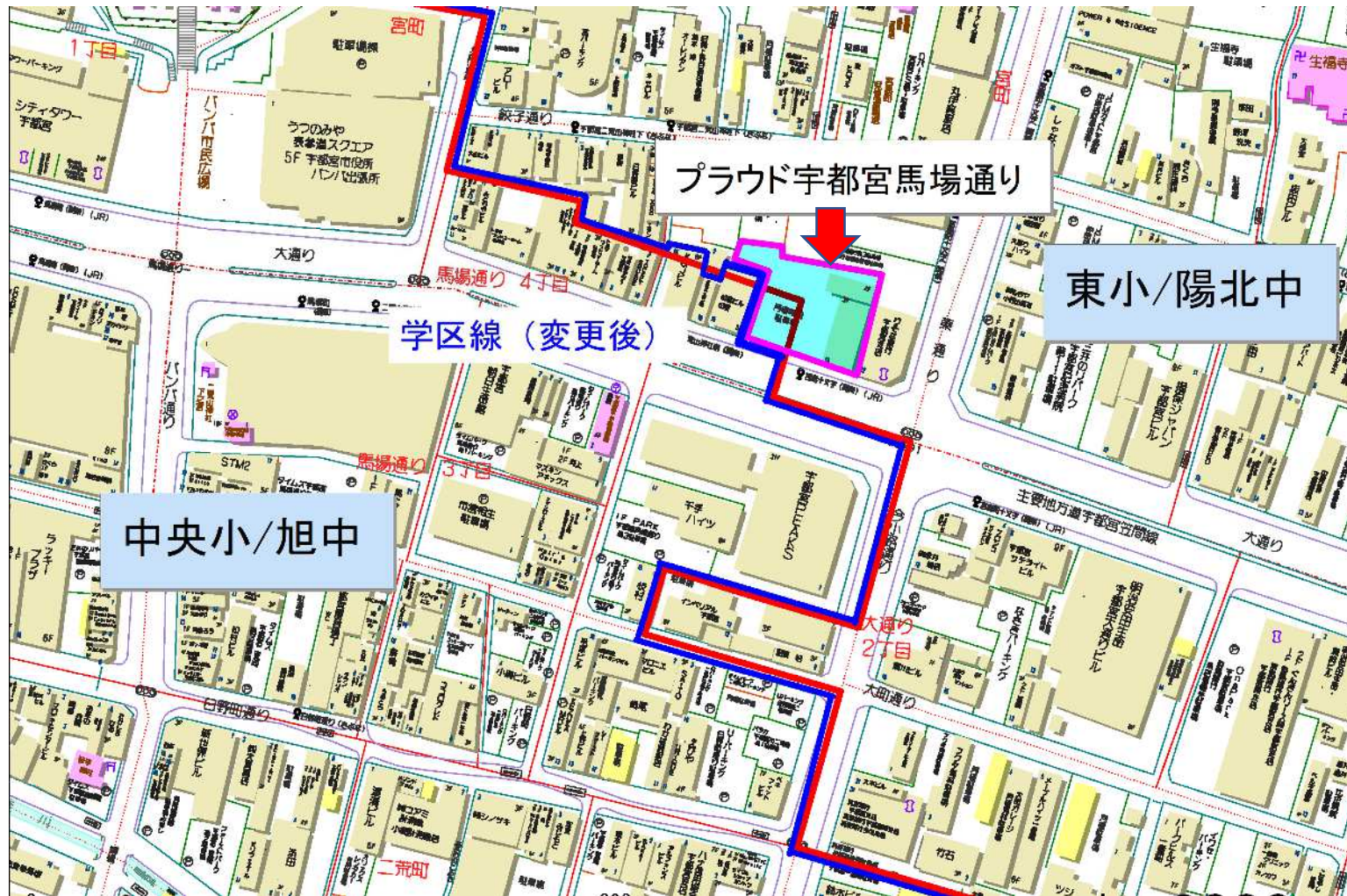
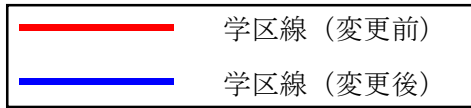
住居表示実施後



住居表示実施前



【参考】別図改正関係



報告第60号

令和5年12月議会一般質問の概要について

令和5年12月議会一般質問の概要について、次のように報告する。

令和5年12月19日提出

宇都宮市教育委員会  
教育長 小堀 茂雄

記

1 質問件数と項目

課名	件数	項目
教育企画課	3	○義務教育学校について ○教育行政について ・公立夜間中学校の設置について ○自主夜間中学校への支援について
学校管理課	2	○今泉小学校における教育環境の確保について ○教育行政について ・学校施設照明のLED化について
学校教育課	5	○子育て支援に係る今後の取組について ・男性教員の育児休業取得の促進について ○市長の政治姿勢について ・子どもを性犯罪から守る取組について ○小中一貫教育について ○小中学生への教育支援について ・IRT型の学力調査の導入について ・デジタル教材のさらなる積極的な活用について ○本市にゆかりのある武将・藤原秀郷について
学校健康課	3	○市長の政治姿勢について ・学校における救急車適正利用の教育について ○子どもの健康について ○インターパーク周辺が抱える課題と対策について
生涯学習課	2	○教育行政について ・デジタル図書館について ○小中学生への教育支援について ・学習塾やスポーツ教室などにかかる費用の一部助成について
文化課	2	○歴史・文化遺産の保存とまちづくりについて ○文化会館の利用について

スポーツ振興課	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツ施設整備について</li> <li>○屋内プール整備の検討状況について</li> <li>○教育行政について <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ施設設備の充実について</li> </ul> </li> <li>○市長の政治姿勢について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴルフ場利用税の使途について</li> </ul> </li> <li>○宇都宮市サッカー場への夜間照明設置について</li> </ul>
教育センター	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育行政について <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の未然防止について</li> </ul> </li> <li>○教育行政について <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒への多様な支援について</li> </ul> </li> <li>○教育行政について <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校対策について</li> </ul> </li> <li>○教育行政について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイリー・センシティブ・チャイルドへの理解と周知について</li> </ul> </li> <li>○不登校の児童生徒への支援について</li> </ul>
合 計	27	

令和5年12月議会一般質問の概要

( ) 内は共管課

議 員	質 問 要 旨	答 弁 要 旨	担 当 課
<p>12月7日 黒子 英明 議員</p>	<p><b>7 義務教育学校について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育9年間を通じて、子どもたちの学力向上や社会性の育成等を行うことができる義務教育学校の設置について検討を進めていく必要があると考えるが見解を伺う。</li> <li>上河内地区の児童数が減少していることを踏まえ、同地区の小中学校を本市初の義務教育学校として設置する検討が必要と考えるが見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市においては、「小中一貫教育・地域学校園」制度のもと、4・3・2制カリキュラムによる9年間の系統的な指導など、言わば施設分離型の義務教育学校ともいえる小中一貫教育を実施しており、義務教育学校の設置は、小学校と中学校の統合の際には、有効な手法であると考えている。</li> <li>上河内地区の小中学校については、当面複式学級の発生は見込まれておらず、現時点では統廃合等は考えていないが、少子化により将来的に子どもたちの学習環境の維持に支障をきたす場合には、義務教育学校の設置も含め、統廃合等について検討していく必要があると考えており、現在、県内義務教育学校の設置事例等について情報収集を行っているところである。</li> <li>今後も引き続き、児童生徒数の推移等を注視しながら、上河内地区を含め、将来を見据えた本市小中学校のあり方について検討していく。 (教育長)</li> </ul>	<p>教 育 企 画 課</p>
<p>12月7日 駒場 昭夫 議員</p>	<p><b>4 スポーツ施設整備について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>清原中央公園庭球場には、ベンチは備わっているが屋根付き施設がないことから、健康面を考慮した暑さ対策と、熱中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清原中央公園には、樹木による日陰のほか、テニスコートからやや西側の広場部分に屋根付き休憩施設を整備しており、テニスコート利</li> </ul>	<p>ス ポ ー ツ 振 興 課</p>

	<p>症予防や高齢者の憩いの場の創出のため、テニスコート近隣で観戦できる屋根付き施設の設置について見解を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北西部地域体育施設のテニスコートについて、「北西部地域体育施設整備基本計画」には、ベンチや椅子が備わった屋根付き休憩施設の記載はないが、設置する計画はあるか、計画が無ければ設置するべきと考えるが、見解を伺う。</li> </ul> <p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>清原中央公園のテニスコートに設置を検討いただけるとのことだが時期はいつ頃か。</li> </ul>	<p>用者の憩いの場として、利用いただいているが、公園利用者と共用の休憩施設であるため、直射日光を避けながら間近で応援、観戦をすることは、難しいと認識している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>清原中央公園のテニスコートは、多くの方にご利用いただいております、近年の記録的な猛暑の中、熱中症への対策がますます重要なため、利用者が快適にスポーツを楽しめる環境づくりが必要と考えている。</li> <li>こうしたことから、今後は、日差しを避けながら、利用者が応援や観戦、休憩ができる環境整備に向け、テニスコート近くへの屋根付きベンチの設置を検討していく。</li> <li>北西部地域体育施設の整備については、今年度、基本設計に着手し、テニスコートや体育館などの施設全体の配置や体育館内における各諸室の機能や規模のほか、トイレやベンチ、日除け、遊具の設置など利用者の快適性や利便性を高めるための屋外設備等について、検討を行っている。</li> <li>整備予定のテニスコートにおいても、熱中症対策が重要であることから、屋根付きベンチの設置を検討していく。</li> </ul> <p>(教育次長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予算も関係することから、明確な時期は言えないが、熱中症の心配がされるため、来年の暑くなる時期の前までには対応できるよう検討する。</li> </ul> <p>(教育次長)</p>	
<p>12月7日 金沢 力 議員</p>	<p><b>6 今泉小学校における教育環境の確保について</b></p>		<p>学 校 管 理 課 ( 教 育 企 画 課 )</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宇都宮駅東口の開発と相まって、今後、マンションの建設が増加し、今泉小学校の児童数が再び増加に転じることが想定されるが、将来の児童数増加をどのように捉えているのか、また、教室不足や校庭の狭隘化の解消を図るなど、早急に教育環境の確保をすべきと考えるが見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今泉小学校の将来の児童数については、住民基本台帳上の未就学児の人数を基に、児童の転入・転出の状況や、近年のマンション建設の影響を踏まえながら、推計を行っているところである。</li> <li>・ ここ数年の児童数については、横ばいで推移し、校舎の教室数には、若干余裕がある状況ではあるが、推計の結果、今後、児童数は、増加に転じる見込みであり、将来的には、校舎の教室数が不足する可能性が高まってきたことから、早急に対応を検討する必要があると認識している。</li> <li>・ 今泉小学校における教育環境の確保については、将来的な教室数の不足や、校舎の増設などによる校庭面積の減少に加え、体育館は老朽化の進行に伴い改修の検討が必要であるなど、様々な施設面の課題にも対応していく必要があると考えている。</li> <li>・ まずは、令和6年度に予定している体育館の整備に向けた実施設計において、教室数の不足にも対応できるよう市内の小学校でも実績のある「体育館へ特別教室などを複合化した事例」を参考に、整備内容を検討していく。</li> <li>・ 校庭の狭隘化の解消についても、児童推計の変動を見極めながら、増設校舎の取り扱いについて検討を進めるなど、引き続き、児童が安心して学校生活を送ることができるよう適切な</li> </ul>	
--	---	---	--



	<p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度に体育館の実施設計を行うのか。</li> <li>実施設計を行った場合、通常の流れであれば、その後、着工することとなるがその予定か。</li> </ul>	<p>教育環境の確保に努めていく。</p> <p>(教育次長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>その通りである。</li> <li>予算や設計内容にもよるが、通常はそのような流れである。</li> </ul> <p>(教育次長)</p>	
<p>12月7日 金沢 力 議員</p>	<p><b>7 屋内プール整備の検討状況について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、ますます加速化する高齢化社会において、市民のスポーツ環境の充実や、健康寿命の延伸のため、できる限り早期に屋内プールを整備すべきと考えるが、現在の検討状況と今後のスケジュールについて伺う。</li> </ul> <p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本来であれば現在の場所に整備することが望ましいところではあるが、屋内プールは、できるだけ駅東に近いライトライン沿線で候補地を選定してもらいたいと考えるがいかがか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな屋内プールの整備場所については、配置バランスが確保でき、公共交通の利便性が高いライトライン沿線のエリアにおいて候補地の選定を進めている。</li> <li>プールの機能は、県営「日環アリーナ栃木」のプールや民間のプールとの役割分担を踏まえ、大会での利用を主目的とするものや娯楽性を重視するものではなく、健康増進や水に親しむことなどを目的に、子どもから高齢者までが気軽に利用できる施設として整備する方向で検討している。</li> <li>今後は、引き続き、今年度を目途に、プール整備の候補地や機能・規模について検討するとともに、令和6年度には、整備における民間活力の導入可能性の調査などに取り組み、屋内プールの早期整備の実現を目指していく。</li> </ul> <p>(教育次長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通の利便性が高いライトライン沿線エリアにおいて、屋内プールの整備に必要な面積が確保できる候補地を検討していく。</li> </ul> <p>(教育次長)</p>	<p>スポーツ振興課</p>

<p>12月7日 山崎 昌子 議員</p>	<p><b>3 歴史・文化遺産の保存とまちづくりについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は、文化に関わる行政部門が市長事務部局に移行するが、今後は関係課の連携をより一層深めながら、本市固有の歴史・文化遺産の適切な保存とこれらを活かしたまちづくりの推進が重要と考えるが、見解を伺う。</li> </ul> <p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化的なものについては、来年市長部局になるということで、保存・保護・観光との連携に期待している。</li> <li>以前は各地区の天棚の調査などをしてきたが、最近は実施していないようであ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長年にわたり培われてきた歴史・文化遺産を維持・継承し、その価値や魅力をまちづくりに活用していくことは大変意義がある。</li> <li>本市では、独自の制度である「みや遺産」により、活動や修理などに係る補助金を交付し支援を行うとともに、指定文化財の映像や資料をデジタルアーカイブ化することなどに取り組んできた。</li> <li>また、「旧大谷公会堂」を「大谷コネクト」内に移築し、歴史・文化遺産を活かした地域の活性化に取り組んでいる。</li> <li>今後は、文化行政が市長事務部局に移管されるに伴い、観光部門との連携など、組織改編の効果を最大限に活かすとともに、今年度から策定中の「文化財保存活用地域計画」において更なる効果的な施策・事業について検討しており、引き続き、本市の歴史・文化遺産を活かしたまちづくりに取り組んでいく。</li> </ul> <p>(教育次長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財調査員がテーマを絞って、調査を実施している。最近では沿線の調査を実施していたが、今後、寺院など幅を広げて調査をしようと考えている。</li> <li>引き続き地域の調査を行い、地域の宝を市独自の制度の「みや遺産」に登録し、保存してい</li> </ul>	<p>文 化 課</p>
-------------------------------	---	---	--------------

	<p>る。調査・研究・保存について、今後力を入れてほしい。</p>	<p>きたいと考えている。まちづくりについても、新たな魅力創造部でも観光等と連携を図りながら、歴史・文化遺産を活用したまちづくりに取り組んでいきたい。</p> <p style="text-align: right;">(教育次長)</p>	
<p>12月7日 山崎 昌子 議員</p>	<p><b>6 子育て支援に係る今後の取組について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校に勤務する男性教員の育児休業取得が進んでいないように感じている。育児休業が取得しやすい環境や雰囲気づくりを醸成することが重要と考えるが見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性教職員の育児参加を促進することにより、教職員が仕事と育児の両立を図る子育てしやすい環境の整備を一層推進していく必要があると認識している。</li> <li>現在、令和2年作成の「楽しい子育て応援計画」に基づき、「子育て応援ハンドブック」や「育児参加計画表」を活用して管理職及び男性教職員に対し、育児休業の取得促進について啓発を行っている。</li> <li>本市における男性教職員の育児休業取得率は、年々増加傾向にあるものの、令和4年度は13%、令和5年度は20%程度の見込みであることから更なる推進が必要と考えている。</li> <li>今後、男性教職員の育児休業取得が当たり前となる機運を醸成するため、管理職が中心となって校長会議などを通して、教職員へ育児参加の理解促進を呼びかけるとともに、「楽しい子育て応援計画」をより一層推進していく。</li> <li>また、育児休業取得後の円滑な職場復帰を目的とした研修の実施について検討するほか、国の動向を見据えながら、男女を問わず子育て世</li> </ul>	<p>学 校 教 育 課</p>

	<p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男性教員も自身の子育ての経験が宝になるため、育児休業を取得するよう呼びかけてほしい。</li> </ul>	<p>代の教職員が生き活きと仕事と子育てに取り組める働きやすい職場環境の整備に努めていく。</p> <p>(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、男性教職員の育児休業取得率は、10%、20%と低い状況にあるため、男性教職員の育児休業取得が当たり前となる機運を醸成していく。</li> </ul> <p>(教育長)</p>	
<p>12月8日 若林 芽育 議員</p>	<p><b>1 市長の政治姿勢について</b> <b>(2) 子どもを性犯罪から守る取組について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもへの性犯罪を防ぐために、日本版DBSの制度化を待たずとも、早急に本市独自の対策をとっていく必要があると考えるため、学校関係の市会計年度任用職員の新たな採用について、また県教育委員会採用の教員への対応について、さらに学校内における性犯罪防止の取組について、見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員による児童生徒に対する性犯罪は決して許されるものではないと認識しているため、高い人権感覚をもち、一人一人の人間をかけがえのない存在として指導にあたることのできる人材を採用・育成することが重要である。</li> <li>市会計年度任用職員の新たな採用については、採用試験の面接や書類審査においてその適性について判断するとともに、過去の犯罪や処分歴がないことを確認している。</li> <li>また、令和6年度の採用試験からは、国の「特定免許失効者管理システム」を活用し、採用希望者がかつて懲戒免職処分を受けた者かどうかを確認し、性犯罪の未然防止に資すると考えている。</li> <li>本市に配置された県教育委員会採用の教職員には、初任者研修や配置校訪問などを通して、</li> </ul>	<p>学 校 教 育 課</p>

		<p>高い倫理観をもって児童生徒と向き合うよう、指導を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内における性犯罪防止については、コンプライアンス意識に係る調査や、教職員研修などを実施し、不祥事の未然防止を促すとともに、風通しのよい職場環境づくりに努めている。</li> <li>・ また、各学校における年2回の保護者からの相談機会の確保や、市教育委員会による相談窓口の開設など、児童生徒や保護者が安心して相談できる体制を整えている。</li> <li>・ 今後も、日本版DBSなどの国の動向を注視しながら、本市の主体的な取組を着実に実施し、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、性犯罪を未然に防ぐ環境づくりに全力で取り組んでいく。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(教育長)</p>	
<p>12月8日 若林 芽育 議員</p>	<p><b>4 教育行政について</b> <b>(1) 不登校の未然防止について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和元年9月定例会の質問で、「一人一人の無気力の要因を的確に把握し、対応する。」と答弁されているが、いま現在、無気力となる要因をどのように把握・分析しているのか伺う。</li> <li>・ 今年度6月定例会の質問で、「学級担任による観察、Q-U調査、年2回以上の教育相談を上げ、対応している。」と答弁しているが、これらの未然防止の取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な要因が複雑に絡み合い、一人一人異なるが、コロナ禍の影響で、児童生徒を取り巻く環境が変わったことにより、人とのかかわりが希薄になり、学校生活の目標や目的を見失い、無気力を生み出していると捉えている。</li> <li>・ 担任の日頃からのかかわりや観察、定期的なアンケート調査をもとに年2回の相談などを行うことで、「児童生徒の心のSOSに対応できた。」と声が挙がっている。</li> </ul>	<p>教育センター</p>

	<p>は効果がみられているのか伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>無気力となる要因の把握と分析や、これまでの未然防止に向けた取組の検証を生かした、今後の不登校の未然防止の対策について伺う。</li> <li>経験や知識をもったスクールカウンセラーらが、児童生徒全員と個別面談を実施することが効果的、かつ即効性があると考えが見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年1回実施しているQ-U調査を中1ギャップ解消のため、小5と中1で、年2回実施したところ、次年度の不登校増加率が抑えられるなど、調査結果を生かした学級経営の効果が、表れている。</li> <li>Q-U調査を不登校数が増えている中学校全学年で、年2回の実施を検討したり、人間関係作りに役立つソーシャルスキルの調査項目を取り入れたりするなど、新たな不登校を生まない方策を検討している。</li> <li>魅力あふれる学校にするため、居心地のよい学級づくりを土台とし、対話活動を取り入れ、コミュニケーション力を高め、ソーシャルスキルの向上を図るなど、人とのかかわりが楽しいと感じる取組を推進する。</li> <li>児童生徒とかかわる中で、きめ細かに観察し、心の変化に気づき、教職員同士が連携を密に行い、児童生徒の様子を伝え合うことで、個別面談につなげている。</li> <li>担任以外も相談を行うなど、全職員体制で、対応し、全ての児童生徒と個別面談を実施する取組を行っている。</li> <li>面談等により、専門的な支援が必要な児童生徒を、スクールカウンセラーにつなぎ、心理と教育の両面から、全校体制で支援策を検討している。</li> </ul> <p>(教育長)</p>	
--	---	--	--

	<p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たなソーシャルスキルの調査項目は具体的にはどのような調査項目か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在のQ-U調査の質問項目に、「友人が話をしているときには話を最後まで聞いていますか」といった人間関係がわかる質問項目を新たに加えている。</li> </ul> <p>(教育長)</p>	
<p>12月8日 若林 芽育 議員</p>	<p><b>4 教育行政について</b> <b>(2) 不登校児童生徒への多様な支援について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つくば市のように、校内フリースクールに教員免許を有する専任職員を配置することで、より専門的な学習支援が受けられる環境を整備することが重要であると考えが見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年度、国が行っている「問題行動等調査」において、不登校改善の手立ての中でも別室登校支援は効果が高い取組であると学校も回答しており、不登校児童生徒が学びたい時に、安心して学べる環境を校内に作ることは大変重要である。</li> <li>そのため、全中学校にメンタルサポーターを配置し、教室で過ごすことに対して不安を感じている生徒への個別対応や、不登校生徒が教室復帰を行う際の段階的な支援を別室で行っており、不登校の未然防止や改善に効果を上げている。</li> <li>今後は、教室で過ごすことに不安を感じている生徒を不登校にさせないための別室支援にも積極的に取り組むとともに、メンタルサポーターの任用要件に教員免許を加えることで、学習面の質の充実を図るなど、支援体制の強化に努めていく。</li> </ul>	<p>教育センター</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間フリースクール利用者や事業者に対して、行政が経済的に支援する必要があると考えるが見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間フリースクールも多様な学びの場の一つであると認識している。</li> <li>本市では、家庭の経済状況によらず、民間フリースクールなどの利用ができるよう、令和3年度より、県が国の委託事業として実施している「不登校児童生徒に対する経済的支援推進事業」を活用し、活動費や交通費の助成を行っている。</li> <li>しかしながら、所得による制限があり、月額利用料については補助が出ないなどの課題があることから、利用者が一律に経済的支援を受けられるよう、今後、各種制限の撤廃について県に働きかけていく。</li> <li>事業所への経済的支援については、フリースクールの明確な定義がないため、選定が困難であり、事業所の所在地が本市に限らないなどの課題もあることから、他自治体の支援について調査研究していく。</li> <li>全ての不登校児童生徒の学びの場の保障と将来の社会的自立に向け、まずは、校内の別室や通所型適応支援教室、デジタル適応支援教室など、不登校児童生徒が安心できる居場所の、より一層、利用しやすい環境づくりに努めていく。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(教育長)</p>	
--	--	---	--



<p>12月8日 若林 芽育 議員</p>	<p><b>4 教育行政について</b> <b>(3) デジタル図書館について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本年4月から本格稼働した宇都宮市電子図書館について、より多くの市民に活用してもらうために、今後どのような取組を進めていくのか伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報紙やホームページをはじめ、イベント会場等での試し読みなどにより周知するほか、コンテンツ数を約2倍に増やしたところ、利用登録者数と貸出回数は順調に増えているが、他市と比べるとまだ少ない状況にある。</li> <li>今後、より一層、市民の皆様にご利用いただくためには、気軽に登録手続きができることも必要と考えていることから、これまで来館を求めていた登録手続きについて、令和6年1月からの図書館情報システムの更新に併せ、オンラインで登録できる仕組みを構築している。</li> <li>さらに、移動時間や待ち時間に登録手続きができるよう、公共施設にQRコード付きのチラシ等を配布するほか、高齢者や障がい者団体等を通して、バリアフリー機能を持つ電子書籍の利活用のメリットを伝えるなど、周知啓発に取り組んでいく。</li> </ul> <p>(教育次長)</p>	<p>生涯学習課</p>
<p>12月8日 小倉 久美 議員</p>	<p><b>7 教育行政について</b> <b>(1) 学校施設照明のLED化について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カーボンニュートラルの実現に向け、未だ実施されていない校舎や体育館などが多い学校施設照明のLED化について、スピーディーな対応を図る必要があると考えるが、見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市においては、市有施設の脱炭素化に向けた取り組みを進めており、施設数が多く、電力使用量が多い学校施設照明のLED化については、省エネルギー化の推進に向け、速やかに進めていくべき重要な取り組みであると認識</li> </ul>	<p>学校管理課</p>

		<p>している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、学校施設照明については、長寿命化改修工事や電気設備の改修工事などに併せたLED化を順次、実施してきており、現在、校舎は10校、体育館は33校において、全面的なLED化が完了している。</li> <li>こうした中、「宇都宮市カーボンニュートラルロードマップ」に基づく市有施設における取り組みとして、全学校施設のLED化をいち早く実現するため、現在、リースやESCO事業などの民間活力の導入も含めた効果的・効率的な事業手法について、比較検討を行っているところであり、スピード感を持って計画的に推進し、環境に配慮した快適な教育環境の整備に取り組んでいく。</li> </ul> <p>(教育次長)</p>	
<p>12月8日 小倉 久美 議員</p>	<p><b>7 教育行政について</b> <b>(1) スポーツ施設整備の充実について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市には、ナイター設備を整えたサッカー場が少ないことから、既存の施設にナイター設備を整えることが可能か、見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サッカーができる9施設のうち3か所に常設ナイター設備を整備しているが、河川敷にあるサッカー場には、浸水被害の拡大や二次災害の発生の恐れがあるため、増水時に移動できない設備の整備は許可されないところであり、その他3か所の運動場については、利用者数が少ないことなどから、現時点では整備の必要性は低いと考えている。</li> <li>「宇都宮市サッカー場」については、周辺住民の生活環境への配慮など、常設のナイター設備の整備に課題があるが、利用者の安全</li> </ul>	<p>スポーツ振興課</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が自由に利用できるバスケットゴールの設置について、駅西エリアに増設が可能か、見解を伺う。</li> </ul>	<p>性や利便性の向上を図るため、試行的にバッテリー式LED投光器の導入を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バスケットゴールについて、「3x3のまち宇都宮」に向けた取組として、平成30年度から駅東公園と清原中央公園に各1台、小中学校には各1台の74台を設置しており、気軽にバスケットボールに触れられる環境を整備した。</li> <li>既存公園へのバスケットゴールの設置は、周辺環境への影響を十分に踏まえる必要があるが、3x3世界大会の開催などを契機に、小中学校からの要望に基づき、子どもたちがよりバスケットボールに触れることができるよう、学校への更なる設置を進めるとともに、宮原運動公園にも設置を予定している。</li> <li>さらに、現在基本設計を進めている北西部地域体育施設においても、今後、詳細を整理していく中で設置を検討するなど、駅西エリアを含む市有施設へのバスケットゴールの設置について検討していく。</li> </ul> <p>(教育次長)</p>	
<p>12月8日 小倉 久美 議員</p>	<p><b>7 教育行政について</b> <b>(3) 不登校対策について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不登校数の増加に対して、新たな不登校を生まない未然防止の取組をこれまで以上に強化することが重要と考えるが、今後どのように取り組んでいこうとしているか見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校の背景には、進学や進級による人間関係の変化や思春期特有の心の不安定さ、コロナ禍でのソーシャルスキル低下によるコミュニケーション不足などがあると考えられる。</li> <li>学級担任が、平日頃から児童生徒の様子を注意深く観察し、いじめアンケートや「Q-U」</li> </ul>	<p>教育センター</p>

		<p>調査, 年2回以上の教育相談で, 児童生徒の心の変化や小さなSOSを早期発見し, 一人一人の不安や悩みに寄り添うことで, 予防に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業では, 居心地のよい学級づくりを土台に, 分かる授業やきめ細かな指導を行い, 言語活動の充実や協力して課題の解決に取り組みせることにより, とともに学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できるようにしている。</li> <li>今後は, 友達と対話する活動を意識的に取り入れ, コミュニケーション力を高めるとともに, 人とのかかわり方を学ぶ時間を設定し, ソーシャルスキルの向上を図るなど, 全ての児童生徒が, 他者と関わり合うことで一層喜びを感じられるような魅力あふれる学校づくりに努めていく。</li> </ul> <p>(教育長)</p>	
<p>12月8日 小倉 久美 議員</p>	<p><b>7 教育行政について</b> <b>(4) ハイリー・センシティブ・チャイルドへの理解と周知について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハイリー・センシティブ・チャイルド(HSC)に対する正しい理解を促すため, 教職員や保護者への周知, 理解についての進捗状況を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市においては, 延べ6,000人が参加した教職員研修全てにおいて, HSCに関する動画を流して周知を図るとともに, 一般市民に向けて講座を開催するなど, 理解促進に努めている。</li> <li>全児童生徒・保護者などを対象とした情報誌「こどもるっくる」を約65,000部発行し,</li> </ul>	<p>教育センター</p>

		<p>H S Cの生まれ持つ気質などについて取り上げ、啓発に取り組んできたところであり、「H S Cが身近におり、考え方が変わった。」などの声が寄せられている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、教職員研修や講座などを通して、H S Cに関する理解促進や、個々の気質に応じたきめ細かな配慮を行うことができるよう、努めていく。 (教育長)</li> </ul>	
<p>12月8日 小倉 久美 議員</p>	<p><b>7 教育行政について</b> <b>(5) 公立夜間中学校の設置について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育を十分に受けられなかった人などが、社会で活躍できる環境を整えていくことが必要と考えるが、公立夜間中学の設置について、現在までの検討状況を伺う。</li> <li>県教育長の「今後、市町教育委員会等の関係機関と十分に協議を重ねながら、早期に方向性を出す」との答弁を踏まえ、見解を伺う。</li> </ul> <p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市に、県立夜間中学を設置してほしいと考えるがいかがか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公立夜間中学については、県内市町間の生徒の受け入れや、財政負担のあり方などの広域的な課題があることから、これまで、県を中心とし、各市町が参加する「夜間中学に関する連絡会議」において、県全体で、検討を進めてきた。</li> <li>本市としても、多様な学びの機会の確保は重要であると考えていることから、今後、栃木県市町村教育委員会連合会を通して県立夜間中学の早期の検討・設置に向け、県に働きかけるなど、県や他市町と連携しながら進めていく。 (教育長)</li> <li>県により県立夜間中学の方向性を出す旨が示されており、今後他市町と連携しながら県立夜間中学の早期設置を要望していきたい。 (教育長)</li> </ul>	<p>教 育 企 画 課</p>
<p>12月8日 原 ちづる 議員</p>	<p><b>2 不登校の児童生徒への支援について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「U@りんくす」の活動をさらに充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「U@りんくす」開設当初より、映像配信や</li> </ul>	<p>教 育 セ ン タ ー</p>

	<p>実らせていくためには、職員を増員する必要があると考えるが、見解を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フリースクールを利用する中で、県の経済的支援事業の対象とならない児童生徒に対し、市が積極的に支援するべきだと考えるが、見解を伺う。</li> <li>・ 「とちぎ多様な学び 居場所マップ」の現在の活用状況と今後の手立てについて伺う。</li> </ul>	<p>コンテンツの充実に努め、不登校児童生徒が自ら学ぶ内容を決め、自主的に取り組めるよう、活動内容の工夫をしており、さらに目的別・学校種別ごとにグループを編成することで、対象となる不登校児童生徒に現行職員で対応できると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ しかしながら、取組の一層の充実のためにはライブ配信等におけるサポートが必要な場面も考えられることから、今後の状況に応じて、サポートスタッフの配置も含め、検討していく。</li> <li>・ 県が国の委託事業として実施している「不登校児童生徒に対する経済的支援推進事業」を活用し、活動費の助成を行っているが、所得制限があり、月額利用料については補助が出ないなどの課題もあるため、利用者が一律に経済的支援を受けられるよう、今後、各種制限の撤廃について、県に働きかけていく。</li> <li>・ 子どもの不登校で悩んでいる保護者の不安を解消し、必要な情報を確実に提供するため、不登校に係る相談の中で、情報を必要とする保護者へ「とちぎ多様な学び 居場所マップ」を案内するとともに、教育センターや適応支援教室「まちかどの学校」の窓口に設置し、情報提供を行っている。</li> <li>・ 今後も、同資料を活用し、必要な方に、必要な情報を届けられるよう努めていく。</li> </ul>	
--	---	---	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フリースクールが安定的な運営となるよう市の支援が必要と考えるが、見解を伺う。</li> <li>・ いじめなど明確な理由がなくても、学校がなんとなく行きたくない場所になっていることから、「行きたくなる学校」にしていくための検討を行っていくべきと考えるが、見解を伺う。</li> </ul> <p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フリースクールを利用する児童生徒へ市として支援していく検討はしていないのか。</li> <li>・ MAPを不登校になってから活用するのではなく、印刷を市で行うことやさくら連絡網で流すことはできないのか。</li> <li>・ 栃木市では、さくら連絡網を活用してMAPの情報を流しているが、本市も同様に行うことを検討するのはどうか。</li> <li>・ 「行きたくなる学校」とはどのような学校なのか、具体的にあるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フリースクールの明確な定義がないため選定が困難であり、本市の児童生徒が利用する施設が市内に限らないなどの課題もあることから、他自治体におけるフリースクールへの支援について、調査研究を進めるとともに、まずは、本市の多様な学びの場の充実に取り組んでいく。</li> <li>・ 児童生徒が登校したくなるような魅力あふれる学校にするために、居心地のよい学級づくりを土台として、授業や学校行事等を通して、対話する活動を意識的に取り入れ、コミュニケーション力を高めるとともに、ソーシャルスキルの向上を図るなど、人とのかかわりが楽しいと感じられるような取組を推進していく。</li> </ul> <p>(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県の「不登校児童生徒に対する経済的支援推進事業」を活用していく。各種制限の撤廃については、県に働きかけていく。</li> <li>・ 保護者からの相談を学校が受けた場合に、MAPを紹介することは可能であるとする。</li> <li>・ さくら連絡網の活用については、栃木市の情報を収集していく。</li> <li>・ 子どもにとって魅力があり、行って楽しい、いろいろな人と触れ合うことができ、毎日が楽しいと思える学校と考えている。</li> </ul>	
--	--	---	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>「U@りんくす」の教諭が学校づくりに入っていくことはできないのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「U@りんくす」の取組を各学校へ紹介することは、現場の教員にとってヒントとなると考えられるため、取組内容を伝える機会を設けていく。</li> </ul> <p>(教育長)</p>	
12月11日 手塚 泉 議員	<p><b>1 市長の政治姿勢について</b></p> <p><b>(1) ゴルフ場利用税の用途について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴルフ場利用税の使い道については、ジュニアゴルファーの育成などのゴルフ振興のみならず、本市のスポーツ振興事業にも充てるべきであると思うが見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴルフをはじめとしたスポーツ振興事業への活用について、本市においては、市民の誰もが生涯にわたりスポーツに親しめる「ひとり1スポーツ」の実現を目指し、各種スポーツの振興や、活動環境の充実に取り組んでいる。</li> <li>具体的には、ゴルフをはじめ、野球やサッカーなど、各種競技の振興に向けた市民スポーツ大会の開催や、宇都宮市ゴルフ連盟など、市内スポーツ団体の活動を支援するための宇都宮市スポーツ協会への助成、子どもから高齢者まで、身近な場所で、多様なスポーツ活動ができるよう総合型地域スポーツクラブへの支援、さらには、体育館や運動場の適切な管理・運営など、スポーツ環境の維持・向上にも取り組んでおり、令和5年度予算で、およそ10億円の歳出予算を計上している。</li> <li>今後とも、本市が目指す「ひとり1スポーツ」の実現に向けて、各種スポーツの振興に取り組んでいく。</li> </ul> <p>(行政経営部長)</p>	財 政 課 (スポーツ振興課)
12月11日 手塚 泉	<p><b>1 市長の政治姿勢について</b></p> <p><b>(2) 学校における救急車適正利用の教育に</b></p>		学 校 健 康 課 ( 警 防 課 )



<p>議員</p>	<p><b>ついて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>救急車の適正利用に向けた啓発は、子どもたちの成長の過程において切れ目なく行うことが重要であると考えていることから、日常の学校教育の一環として取り入れるなど、学校教育の中で救急車の適正利用を継続的に学ぶことについて見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校における救急車の適正利用に関する学習については、消防局が主体となり「ジュニア救命士養成事業」を実施している。</li> <li>また、小・中学校においては、児童生徒の発達の段階に応じて救急車の利用について指導しており、小学校の社会科や体育科、中学校の保健体育科において学習している。</li> <li>今後も、消防局と連携しながら、ジュニア救命士養成事業を継続して実施するとともに、各教科における指導にも、引き続き取り組み、緊急時に命を守るための判断力や行動力の育成に努めていく。</li> </ul> <p>(教育長)</p>	
<p>12月11日 横須賀 咲紀 議員</p>	<p><b>7 文化会館の利用について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化会館の申請受付開始日には、既に予約が入り利用できない場合もあると聞いているが、予約の優先の考え方について伺う。</li> <li>利用者のニーズや抽選の倍率などの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化会館は、質の高い文化芸術の鑑賞機会の創出と市民の文化芸術活動の発表の場の提供を目的として整備したものであり、世界的水準の芸術家等が出演する催事、市や教育委員会、指定管理者が主催する催事など、施設の設置目的に則したものについて優先予約を行っている。</li> <li>それ以外の日の市民利用については抽選を行っており、対象月の前月25日に、文化会館HPで利用可能日や抽選方法等について周知を図っている。</li> <li>土日利用の希望が多い傾向にあり、大ホール</li> </ul>	<p>文 化 課</p>

	<p>実績について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用できていない団体へのサポートについてどのように取り組んでいるのか伺う。</li> </ul>	<p>の令和6年4月から12月分においては、175日の利用可能日に対し、のべ57団体の申し込みがあり、このうち抽選なく申込みできたのは35団体、抽選が行われた18日においては、2から6団体により抽選が行われ、平均倍率は概ね3倍であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用可能な別日等の案内や、県の総合文化センターなど本市にホールを有する他施設について情報提供を行っている。</li> <li>・ 今後は、文化会館HPに優先予約の考え方を掲載するほか、市内の類似施設のリンクの充実や、利用可能日の確認がよりしやすくなるようHPの改善を図るなど、きめ細かな情報提供に努めていく。</li> </ul> <p>(教育次長)</p>	
<p>12月11日 小室 かな子 議員</p>	<p><b>2 子どもの健康について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GIGAスクール構想等によって、学習環境が変わる中で子どもの目の健康をどのように守るのか見解を伺う。</li> <li>・ 学習環境の変化による視力低下が社会問題となり、物価高騰などの情勢を考えれば、就学援助項目に眼鏡購入費を加えることは必須課題になっていると考えるが、見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒に対し、健康面への配慮事項を指導するとともに、家庭に対し、デジタル端末利用の際の注意事項について周知している。</li> <li>・ 今後も、児童生徒の健康面へ配慮し、目の健康の保持に努めていく。</li> <li>・ 本市の就学援助制度においては、国が示す基準に準拠しながら援助費目の追加や支給額の増額を行い、保護者負担の軽減を図っている。</li> <li>・ 本市の令和4年度の1人当たりの年間平均支給額は、中核市の平均額と比較して高い水準となっている。</li> </ul>	<p>学 校 健 康 課 ( 学 校 管 理 課 ) ( 男 女 共 同 参 画 課 )</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの通学バッグについては、リュックサックの利用により選択肢が増えるため、ランドセル以外の物も通学カバンとして利用できることを市として周知することについて見解を伺う。</li> <li>本市においても、学校トイレの生理用ナプキンの配置を始めているが、活用状況や配置の工夫について見解を伺う。また、生理用品の配置により、具体的な支援につながったケースなどについて伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「眼鏡購入費」については、国が示す基準に含まないが、1人当たりの支給総額が高い水準にある本市の就学援助費の中で、一律に支給している「学用品費」や、「新入学学用品費」などにより眼鏡の購入費についても賄われるものと考えている。</li> <li>今後も引き続き、国の動向や教育に係る経済的な負担を踏まえながら適切に制度を運用していく。</li> <li>小学生が、ランドセルを使用することについては、使用を規制するものではないことから、各家庭の判断において選択できることとしている。</li> <li>ランドセル以外の使用については、教職員を対象とした研修などにおいて、改めて周知するとともに、就学時健康診断や市内の保育園・幼稚園等の代表者との意見交換の場など多様な機会を活用して、周知の強化を図るなど、機会を捉えて、入学前の子どもや在校生の家庭へ周知していく。</li> <li>「宇都宮市つながりサポート女性支援事業」の一環として、生理用品を全校の女子トイレに設置するとともに、「宇都宮市つながりサポート女性支援事業」のチラシを掲示し、相談窓口を周知している。</li> <li>生理用品の活用状況については、使用数は年々増加しており、配置方法については、学校</li> </ul>	
--	--	--	--

	<p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>眼鏡購入費については、要保護世帯については生活保護制度の中で支給されており、準要保護世帯についても保護者負担の軽減を図るため支給を行うべきと考えるが、見解を伺う。</li> <li>ランドセル以外の通学カバンの利用について、在校生に対しても改めて周知することはできないか。</li> <li>生理用品について、学校の設置状況を把握しているか。</li> </ul>	<p>の実情に応じて、児童生徒が必要な時に使いやすきようにする工夫をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用される生理用品の数が増加していることから、必要としている児童生徒が気軽に使用できる環境が整えられているものと考えている。引き続き、児童生徒の健康を支援し、安心して学校生活を送ることができるよう取り組んでいく。</li> </ul> <p>(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学用品費」や「新入学学用品費」で眼鏡購入費についても賄えると考えている。</li> </ul> <p>(教育次長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学前の子どもだけでなく、在校生の家庭へも、様々な機会を捉えて、周知していく。</li> </ul> <p>(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全ての小中学校において、女子トイレに設置しており、洗面台や個室の一部など、学校の実情に応じて設置している。</li> </ul> <p>(教育長)</p>	
<p>12月12日 石川 京樹 議員</p>	<p><b>1 小中一貫教育について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫教育カリキュラムの現在の取組状況と今後の計画について伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育9年間の学びを一体的に捉え、英語教育や宇都宮学の学習はもとより、基礎期、活用期、発展期の段階に応じたきめ細かな指導を充実させることにより、全ての児童生徒に対して学習内容の確実な習得を図っており、今後</li> </ul>	<p>学 校 教 育 課 ( 教 育 企 画 課 )</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• G I G Aスクール構想により整備した端末及び通信環境等を活用し，小中学生の交流活動や小中学校の教員による会議等をオンラインにより効率的かつ効果的に実施することができるよう検討しているが，その取組の現状や検討状況について伺う。</li> <li>• 小学校と中学校の教職員がより密接に連携し，教育プログラムの計画と実施において一貫性を確保する具体的な取組を設けるべきと考えるが，見解を伺う。</li> <li>• 中1ギャップ対策を導入し，児童生徒の自己肯定感を高めるための取組を強化するべきと考えるが，見解を伺う。</li> </ul>	<p>は，1人1台端末を効果的に活用するなど，小中一貫教育カリキュラムの一層の充実に取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 異なる学校の児童が同時双方向でやりとりを行う外国語学習や児童会と生徒会の交流などがWeb会議システムにより実施されており，効果的に活用されている。</li> <li>• 教職員の取組については，約半数の地域学校園でオンラインの会議や打合せが行われており，業務の効率化が図られている。</li> <li>• オンラインの取組の検討状況については，小学6年生の進学先中学校訪問をオンラインで実施することについて協議し，効果を踏まえて対面での実施を継続したところである。</li> <li>• 今後も，対面のよさとオンラインの強みを適切に組み合わせながら教育活動の工夫・改善に努めていく。</li> <li>• 今年度より，各地域学校園において，最重点目標を設定するとともに，P D C Aサイクルの構築を推進しており，小中学校の教職員がより緊密に連携し，最重点目標の達成に向けた一貫性のある取組を推進していく。</li> <li>• 小学6年生の進学先中学校訪問のほか，各小中学校においては，「宮・未来キャリア・パスポート」を導入し，将来の職業や生き方について考えられるよう，活用しているところである。</li> </ul>	
--	---	--	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領に基づく教育内容に加えて、地域の特性や児童生徒のニーズを反映した教育内容の質的向上を図るべきと考えるが、見解を伺う。</li> <li>義務教育学校は、子どもの教育にも効果的であると考えており、小学校卒業後の進学先が、概ね一つの中学校になる地域において始めるべきと考えるが見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後は、小学校高学年における職業人による講話や体験活動を拡充して宮っ子「夢」教室を実施し、中1ギャップの解消と自己肯定感を高める取組を推進していく。</li> <li>地域ボランティアによる授業支援や、児童生徒の地域行事への参加などのほか、各中学校においては、地域未来会議を推進しており、世代をこえた他者と議論する貴重な体験を積み重ねるなど、教育活動の質的向上を図っており、今後とも、地域の方々の協力を得ながら地域学校園ごとの特色ある取組の更なる充実に努めていく。</li> <li>本市では、「小中一貫教育・地域学校園」制度における、義務教育9年間の学びを一体的に捉えた指導により、言わば施設分離型の義務教育学校ともいえる小中一貫教育を実施しており、義務教育学校の設置は、小学校と中学校の統合の際には、有効な手法であると考えている。</li> <li>「小学校卒業後の進学先が、概ね一つの中学校になる地域における義務教育学校の設置」については、現在、全市的に複式学級が発生している状況になく、現時点では統廃合や義務教育学校の設置は考えていないが、今後、より一層の少子化により子どもたちの学習環境の維持に支障をきたす場合には、義務教育学校の設置も含め、学校の統廃合等について検討していく</li> </ul>	
--	--	---	--

	<p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民から義務教育学校を設置してほしいという意見があると思われるが、アンケート調査を実施してはどうか。</li> <li>・ 小中一貫教育・地域学校園について、周知を図ることが重要であると考え。</li> </ul>	<p>必要があると考えているため、将来を見据えた本市小中学校のあり方について検討していく。</p> <p>(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 義務教育学校の設置に関する意見は聞いている。アンケートをとることについては、影響が大きいことから、今後調査・研究していく。</li> <li>・ 周知が不足している場合は、周知を図っていく。</li> </ul> <p>(教育長)</p>	
<p>12月12日 石川 京樹 議員</p>	<p><b>2 小中学生への教育支援について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て世帯の経済的負担軽減，子どもの学習意欲や個性を伸ばす機会の提供のため，小中学生の学習塾やスポーツ教室などにかかる費用の一部を助成すべきと考えが見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活困窮世帯の中学生などに対し，学力向上や家庭学習の習慣付けを目的とした学習支援事業，「関係性の貧困」を防ぐため，親への支援や小中学生への家庭学習の支援を実施する「宮っこの居場所づくり」事業を実施している。</li> <li>・ さらに，希望する全ての児童生徒を対象に，放課後子ども教室において，小学生の宿題の支援やスポーツなどの体験活動を行っているほか，中学生の自主学習を無料でサポートする学習支援「地域未来塾」を実施している。</li> <li>・ 引き続き，これらの事業に取り組んでいくとともに，学習塾やスポーツ教室などにかかる費用の一部助成について，国や他市の動向を注視していく。</li> </ul> <p>(教育次長)</p>	<p>生涯学習課 (子ども政策課)</p>

<p>12月12日 石川 京樹 議員</p>	<p><b>2 小中学生への教育支援について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の児童生徒の学習状況を詳細に把握し、個別化された指導を実現するためにIRT型の学力調査の導入をすべきと考えるが、見解を伺う。</li> <li>多様な学習スタイルに対応し、教室外での学習も支援するために、デジタル教材のさらなる積極的な活用が必要と考えるが、見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の能力を適正に測ることができる方法である一方、問題を非開示にする必要があることから、復習しながら定着を図ることができないなどの課題があると受け止めている。</li> <li>本市においては、本市独自の「学習内容定着度調査」、「学習と生活についてのアンケート」を実施し、一体的に分析することで、教員による指導の充実や調査問題の学び直しによる児童生徒の学力の定着に大きな役割を果たしていることから、当面は現行の学力調査を継続していく。</li> <li>個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るため、AI型個別学習ドリルや協働学習支援ツールなど、教室内外からアクセスできる教材を整備しているところであり、引き続き、デジタル教材を効果的に活用した学習活動を推進していく。</li> <li>今後とも、学力調査や教材などを工夫・改善しながら、児童生徒の確かな学力の向上に取り組んでいく。</li> </ul> <p>(教育長)</p>	<p>学 校 教 育 課</p>
<p>12月12日 石川 京樹 議員</p>	<p><b>5 インターパーク周辺が抱える課題と対策について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターパーク周辺においては、通学路の安全対策や児童生徒に配慮した通学方法の提供が重要であると考え、児</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学路の安全確保については、「宇都宮市通学路交通安全プログラム」に基づき、毎年、「通学路合同点検」を学校や教育委員会、道路管理</li> </ul>	<p>学 校 健 康 課</p>



	<p>童生徒の通学路の安全確保と通学方法に関して、現状と課題、今後の取組について、見解を伺う。</p> <p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターパーク周辺の渋滞により抜け道となる道路での危険が考えられるが、子どもたちを危険から守るための対策は考えているか。</li> </ul>	<p>者、栃木県警察等が連携して実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これらの点検を踏まえ、路面標示や宇都宮環状道路の横断などの課題があったことから、横断歩道の標示や歩道橋の新設など、通学路の安全対策を講じてきたところである。</li> <li>・ 通学方法については、「徒歩通学」を基本としている。中学校については、自転車での通学を認めており、ヘルメット着用の義務付けや事故防止について指導している。</li> <li>・ 今後も、学校や地域、警察などの関係機関と連携し、通学路の安全確保に取り組んでいく。</li> </ul> <p>(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「通学路合同点検」を、学校関係者や道路管理者、交通管理者などで実施しており、インターパーク周辺についても、関係者で連携して対応していく。</li> </ul> <p>(建設部長)</p>	
<p>12月12日 平松 明夫 議員</p>	<p><b>5 自主夜間中学校への支援について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主夜間中学が運営予算や運営場所の確保に腐心しなくて済むよう、支援が必要と考えるが、見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本市で活動する自主夜間中学である「とちぎ自主夜間中学 宇都宮校」に対しては、生涯学習団体の一つとして、生涯学習センターの使用料の減免などの支援を行っているほか、その他の利用上の相談に対しても可能な限り寄り添いながら対応しているところである。今後も自主夜間中学から、市有施設の利用や周知について相談があった場合には、他の生涯学習団体と同様に適切に対応していく。</li> </ul>	<p>教 育 企 画 課</p>

	<p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育長自身は自主夜間中学を視察したことはあるか。現場を見て判断して欲しいので、ぜひ行って欲しい。</li> </ul>	<p>(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアとして活動している方から状況等についての話は聞いている。視察の実施については検討させていただく。</li> </ul> <p>(教育長)</p>	
<p>12月12日 平松 明夫 議員</p>	<p><b>6 宇都宮市サッカー場への夜間照明設置について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栃木S Cのユース世代が練習で使用する宇都宮市サッカー場の夜間照明の設置に、早急に取り組むべきと考えるが、栃木S Cとの協議の状況とその後の検討状況について伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇都宮市サッカー場は、これまでも夜間照明設置の要望はあるが、常設の照明は、周辺住宅環境への配慮の面から課題があることから、利便性の向上のため令和4年度以降、バッテリー式LED投光器の導入について、その性能や必要数など情報収集を行い、主な利用団体である栃木S Cと情報共有を図りながら協議を進めてきた。</li> <li>栃木S Cからは練習に十分な光量の確保が可能かどうか不確実であり、バッテリー式LED投光器を導入しても選手の安全上の観点から、十分に活用できない可能性があるとの意見をいただいた。</li> <li>一方で、他の利用者からは「施設の利用時間内においても、暗くなるのが早い冬の時期には、本格的な練習や試合ができなくても簡単なトレーニングができる程度の照明を設置して欲しい」などの要望があり、練習の補助としての利用や片づけなどの際に利用者の安全性の向上を図るため、試行的にバッテリー式LED投光器を導入することを検討している。</li> <li>今後は、宇都宮市スポーツ施設整備計画を改</li> </ul>	<p>スポーツ振興課</p>

	<p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度から検討を進めているが、設置する方向で検討しているのか伺う。</li> </ul>	<p>定する中で、利用者の意見を聞くとともに、周辺環境への影響がでないような照明器具の新たな技術などについても調査・研究を行うなど、宇都宮市サッカー場の機能向上について検討していく。</p> <p>(教育次長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算との兼ね合いもあるため、時期は未定であるが、試行的に導入する方向で検討している。</li> </ul> <p>(教育次長)</p>	
<p>12月12日 塚田 典功 議員</p>	<p><b>6 本市にゆかりのある武将・藤原秀郷について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本市においても数々の英雄伝説が残り、歴史家からは「武士の始まり」と言われる「藤原秀郷公」を、学校教育や生涯学習など本市の歴史コンテンツとして活かしていくってはどうかと考えるが、見解を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「藤原秀郷」については、武勇に優れた人物であるとともに、本市にゆかりのある人物であると受け止めている。</li> <li>・ 本市の学校教育においては、中学校版「宇都宮学」副読本において、「宇都宮城」の築城に携わったと言われる人物の1人として紹介しており、生涯学習においては、宇都宮市民大学の講座にて「藤原秀郷」を学習テーマの一つとして取り上げている。</li> <li>・ 「宇都宮学」については、令和6年度に小学校、令和7年度に中学校版副読本の改訂を予定していることから、その中で、「藤原秀郷」の取り上げ方について、更に検討していく。</li> </ul> <p>(教育長)</p>	<p>学 校 教 育 課</p>

## 令和５年度教育支援者感謝状贈呈式の結果について

### 1 制度の目的

学校教育への支援や地域における子どもの育成活動を実践している個人・団体（企業を含む。）に対し、教育委員会がその活動に対し感謝の意を表すとともに、教育支援者の意欲の向上と地域における学校教育等への支援意識の高揚を図り、ひいては地域ぐるみの子育てに資することを目的に、平成２６年度より実施しているもの

### 2 選考基準等

#### (1) 対象者

学校教育への支援活動や地域活動において、子どもの育成に関わる支援を原則５年以上実践し、市内に主な活動拠点がある個人・団体のうち、活動頻度、活動内容などを総合的に判断し、功績が特に顕著であるもの

#### (2) 対象となる活動内容

- ① 学校支援ボランティア, 魅力ある学校づくり地域協議会及びP T Aの役員等としての, 学校教育への支援活動
- ② 宮っ子ステーション推進委員, 放課後子ども教室の活動へのボランティア等としての, 地域における子どもの育成活動
- ③ その他（学校等への土地の無償貸与 など）

#### (3) 選考

上記選考基準に該当する対象者について、各小中学校、魅力ある学校づくり地域協議会及び教育センターから推薦を受け、選考委員会にて審査を行い、受賞者を決定

### 3 感謝状受賞者

- ・ 審査の結果、推薦を受けた８１者（個人７６名・団体５組）全員を受賞者として決定
- ・ 詳細は、[参考資料](#)「令和５年度教育支援者感謝状受賞者一覧（敬称略）」のとおり

#### [活動内容別の内訳]

主な活動内容	個人	団体	合計
①－１ 学校支援ボランティア	４６	４	５０
①－２ 魅力協, P T A等の役員	１９	１	２０
② 宮っ子ステーション, 放課後子ども教室における育成活動	１０	０	１０
③ その他（土地の無償貸与）	１	０	１
合計	７６	５	８１

参考：実績（過去の受賞者数）

年度	個人	団体	計
R01	71	21	92
R02	62	14	76
R03	63	7	70
R04	70	8	78

#### 4 感謝状贈呈式

##### (1) 日時・場所

日 時：令和5年11月25日（土）

午前11時15分～午前11時45分

会 場：オリオンスクエア（「うつのみや人づくりフォーラム」において実施）

出席者：受賞者81名中51名出席

##### (2) 受賞者代表（敬称略）

贈呈式当日は、下記代表者へ感謝状を贈呈

主な活動内容	推薦者	氏名
①-1 学校支援ボランティア	清原中央小	沼生 量一
①-2 魅力協，PTA等の役員	若松原中	松ヶ下 智子
② 宮っ子ステーション，放課後 子ども教室における育成活動	御幸小	枝野 修一
③ その他(土地の無償貸与)		

(参考) 令和5年度教育支援者感謝状贈呈式の様子



感謝状受賞者の皆様

## 令和5年度 教育支援者感謝状 受賞者一覧（敬称略）

番号	学校名	氏名または団体	活動内容
1	中央小	安藤 泰次	子ども会・育成会を通じた学校教育に関する支援活動
2	西小	荻野 由利子	パトロール・見守り活動
3	築瀬小	栗原 伸一	パトロール・見守り活動
4	西原小	角山 宗	授業の支援
5	戸祭小	坂井 晶子	パトロール・見守り活動
6	昭和小	安藤 明之	P T A活動
7	昭和小	昭和地区 自主防災会	パトロール・見守り活動
8	陽南小	小瀬 富子	授業の支援
9	陽南小	島 節子	パトロール・見守り活動
10	錦小	菊地 朋子	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
11	峰小	高崎 光子	授業の支援
12	峰小	小林 里奈	宮っ子ステーションの活動
13	富士見小	鈴木 仁	パトロール・見守り活動
14	泉が丘小	高野 治子	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
15	石井小	黒沢 昇	パトロール・見守り活動
16	緑が丘小	中村 順子	読み聞かせ
17	緑が丘小	村松 美智子	読み聞かせ
18	宮の原小	中村 大介	P T A活動
19	宮の原小	谷口 隆行	子ども会・育成会を通じた学校教育に関する支援活動
20	御幸小	枝野 修一	土地の無償提供
21	城東小	荒井 幸子	パトロール・見守り活動
22	清原中央小	沼生 量一	農業体験指導・水田管理
23	清原南小	黒崎 清	パトロール・見守り活動
24	横川中央小	上野 見和	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
25	横川中央小	小野寺 紀子	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
26	横川西小	岩出 和子	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
27	横川西小	入内澤 雅代	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
28	瑞穂野北小	坂本 浩	授業の支援
29	瑞穂野南小	西山 和江	読み聞かせ
30	瑞穂野南小	加藤 敏子	読み聞かせ
31	豊郷中央小	三宅 敬義	パトロール・見守り活動
32	豊郷南小	松井 可奈美	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
33	豊郷北小	福田 和也	農業体験指導・水田管理
34	国本中央小	横谷 久夫	宮っ子ステーションの活動
35	城山中央小	小野口 勝仁	農業体験指導・水田管理
36	城山東小	菅原 拓朗	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
37	富屋小	入江 隆三	パトロール・見守り活動
38	姿川中央小	齋藤 麻里	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
39	姿川第一小	宮内 深雪	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
40	姿川第二小	長安 正	パトロール・見守り活動
41	姿川第二小	長安 紀子	パトロール・見守り活動
42	姿川第二小	飯村 志保美	宮っ子ステーションの活動

令和5年度 教育支援者感謝状 受賞者一覧（敬称略）

番号	学校名	氏名または団体	活動内容
43	陽 東 小	亀井 二千夫	農業体験指導・水田管理
44	陽 東 小	小川 幸伯	農業体験指導・水田管理
45	御幸が原小	御幸が原小学校 学校支援ボランティア	授業の支援
46	瑞穂台小	和田 さおり	読み聞かせ
47	晃 宝 小	山口 昭吾	パトロール・見守り活動
48	新 田 小	勝又 洋子	宮っ子ステーションの活動
49	新 田 小	小林 浩美	宮っ子ステーションの活動
50	海 道 小	坂本 昭夫	農業体験指導・水田管理
51	海 道 小	竹原 義行	授業の支援
52	西 が 岡 小	福地 節子	宮っ子ステーションの活動
53	西 が 岡 小	平野 朱美	宮っ子ステーションの活動
54	上 戸 祭 小	読み聞かせボランティア やじろべえ	読み聞かせ
55	上 戸 祭 小	中嶋 優美	宮っ子ステーションの活動
56	上河内東小	鈴木 陽一	宮っ子ステーションの活動
57	上河内中央小	猪瀬 秀世	パトロール・見守り活動
58	上河内中央小	猪瀬 直子	パトロール・見守り活動
59	上河内中央小	東原 万里江	パトロール・見守り活動
60	白 沢 小	菊地 勲	授業の支援
61	白 沢 小	池田 美知恵	授業の支援
62	田 原 小	大森 久夫	授業の支援
63	田 原 小	小田切 洋子	読み聞かせ
64	岡 本 西 小	板橋 貞夫	パトロール・見守り活動
65	岡 本 北 小	新井 寛子	授業の支援
66	一 条 中	竹中 智美	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
67	星 が 丘 中	塚田 栄一	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
68	陽 東 中	陽東小学校魅力ある 学校づくり地域協議会 学校支援ボランティア ミシン担当	清掃活動・環境整備
69	泉 が 丘 中	山崎 美奈子	P T A活動
70	泉 が 丘 中	秋澤 玲紘	P T A活動
71	豊 郷 中	佐藤 要	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
72	豊 郷 中	福田 秀行	清掃活動・環境整備
73	城 山 中	大谷資料館	授業の支援
74	姿 川 中	相田 淑子	授業の支援
75	姿 川 中	坂本 正子	授業の支援
76	雀 宮 中	遠藤 廣	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
77	雀 宮 中	守谷 周三	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
78	鬼 怒 中	森崎 恭宏	行事への協力
79	若 松 原 中	松ヶ下 智子	魅力ある学校づくり地域協議会の活動
80	教育センター	鈴木 博子	授業の支援
81	教育センター	渡辺 貴子	授業の支援

## 第25回(令和5年度)うつのみやジュニア芸術祭の結果について

### ■目的

次代を担う青少年を対象とした芸術祭を開催することで、青少年の芸術文化に対する意識の高揚を図るとともに、本市芸術文化の振興を担う人材を育成する。

事業名	期日/期間	会場	出品数及び参加団体数			観覧者数 (文芸は応募者)		
			第25回	第24回	比較増減	第25回	第24回	比較増減
ポスター原画展	9/29-10/3	市文化会館 展示室	330点	248点	+ 82点	2,179人	1,733人	+ 446人
学校美術展			604点	509点	+ 95点			
学校書道展	10/20-10/24	市文化会館 展示室	1,179点	1,206点	- 27点	3,512人	3,501人	+ 11人
学校音楽祭	9/22-23	市文化会館 大ホール	50団体	50団体	± 0点	1,800人	1,200人	+ 600人
学校演劇祭	10/20-21 (小中学校)	市文化会館 小ホール	9団体	10団体	- 1団体	900人	180人	+ 720人
	10/14-15 (高等学校)	市文化会館 小ホール	8団体	8団体	± 0団体			
ジュニア音楽祭	11/12	市文化会館 大ホール	3団体	3団体	± 0団体	252人	200人	+ 52人
ジュニア文芸	11/25発刊		24,692点	24,874点	- 182点	17,100人	17,294人	- 194人
合 計			26,805点	26,837点	- 32点	25,743人	24,108人	+ 1,635人
			70団体	71団体	- 1団体			
表彰式	11/25	市役所 14大会議室						



# 第25回うつのみやジュニア芸術祭

## ～ギャラリー部門～



学校美術展  
ポスター原画展



学校書道展

## ～ホール部門～



学校音楽祭



学校演劇祭



ジュニア音楽祭

## ～文芸部門～

第25回うつのみやジュニア芸術祭

### 文芸作品集

2023 (令和5)年度版



うつのみやジュニア芸術祭実行委員会



## 実施事業参考写真

ジュニア文芸作品集

### 第37回宇都宮マラソン大会の結果について

#### 1 大会概要

- (1) 日 時 令和5年11月19日(日)
- (2) 会 場 清原中央公園及び清原工業団地周辺道路
- (3) 日 程 開会式 午前8時45分  
スタート 午前9時15分～午前10時45分  
全25クラス順次スタート  
閉会式(閉会宣言) 午後1時15分
- (4) 開催方法 LRT開業記念大会として実施  
(コース変更・ハーフマラソンの復活・ゲストの招待)
- ・定員数 5,100人
  - ・コース LRTの開業に伴い変更
  - ・その他 ゲスト(U字工事・Lovin&S)によるステージイベント

#### 2 参加状況

##### (1) 申込・出走

距離	区分	定員(人)	申込者(人)	申込率	出走者(人)	参加率	完走者(人)	完走率
2km	親子ペア	1,500	1,410	94%	1,304	92.5%	1,250	95.9%
3km	小学高学年	600	337	56.1%	312	86.5%	270	86.5%
5km	中学生	300	150	50%	136	90.7%	113	83.1%
	一般	700	710	101.4%	633	89.2%	619	97.8%
10km	一般	1,000	1,001	100.1%	946	94.5%	905	95.7%
ハーフ	一般	1,000	735	73.5%	676	92.0%	635	93.9%
合計		5,100	4,343	85.2%	4,007	92.3%	3,792	94.6%

(参考) 申込件数 **3,638件** ※親子ペアマラソンは2人で1件と計算

##### (2) 地域別申込件数

	市 内	県内(市外)	県 外	合 計
申込件数	2,360	742	536	3,638
比 率	64.9%	20.4%	14.7%	100%

##### (3) 最高齢者

男性85歳(宇都宮市 5km完走)

女性83歳(宇都宮市 5km完走)

##### (4) 遠隔地者

北=北海道 南=鹿児島県

### 3 L R T開業記念事業

#### (1) ゲストステージイベント等について

- ・U字工事 漫オステージ・トークショー
- ・Lovin&S ステージ・トークショー
- ・宇都宮ブリッツェントークショー（堀選手・小野寺選手）
- ・ゆるキャラステージ
- ・抽選商品プレゼント発表

#### (2) 参加者特典

L R Tを利用して来場する参加者に対し往路分（駅東口停留所から清原地区市民センター前停留所区間）の運賃を無料対応。

※復路は参加者負担

### 4 今年度の総括と来年度に向けた取組

#### (1) 今年度の総括

4大会ぶりに参加制限等なく開催され、L R T開業記念大会ということもあり、県内外から多数の参加者が見られた。

ライトラインの利用を促進したことによる混雑も想定されたが、5便の臨時便の運行等により、大きな混乱はなかった。

#### (2) 来年度に向けた取組

- ・小中学生の申し込み数が伸び悩んだところであり、次回大会における周知広報の時期や方法を検討していく。
- ・L R T利用者が停留所と会場を往来する際に歩道が混雑し、ランナーと接触する危険性があったため、参加者の会場までの誘導方法等、安全に運営する方法を検討する。

参考

大会成績 クラス別優勝者

種 目		氏 名	住 所	参加者数	
1	2 k m	小学生男女	山野 陽平	芳賀郡	460 人
		3 年生と親のペア	山野 祐馬		
2	2 k m	小学生男女	植松 篤史	埼玉県 さいたま市	488 人
		2 年生と親のペア	植松 詩		
3	2 k m	小学生男女	加藤 晴香	真岡市	356 人
		1 年生と親のペア	加藤 祐維斗		
4	3 k m	小学生女子 4～6 年生	今井 晴茄	宇都宮市	120 人
5		小学生男子 4～6 年生	塚原 潤季	真岡市	192 人
6	5 k m	中学生 女子	樋口 結愛	宇都宮市	36 人
7		中学生 男子	阿久津 和希	真岡市	100 人
8		一般女子 (高校生～39 歳)	蓬田 梨世蘭	宇都宮市	78 人
9		一般女子 (40～59 歳)	福田 京子	宇都宮市	111 人
10		一般女子 (60 歳以上)	幸田 昌代	茨城県結城市	38 人
11		一般男子 (高校生～39 歳)	柳原 貴大	埼玉県狭山市	129 人
12		一般男子 (40～59 歳)	葭葉 剛士	鹿沼市	182 人
13		一般男子 (60 歳以上)	大田原 啓	那須塩原市	95 人
14	10 k m	一般女子 (高校生～39 歳)	永井 のぞみ	壬生町	61 人
15		一般女子 (40～59 歳)	清水 美香	宇都宮市	85 人
16		一般女子 (60 歳以上)	武石 智子	小山市	16 人
17		一般男子 (高校生～39 歳)	荻野 桂輔	茨城県古河市	221 人
18		一般男子 (40～59 歳)	桑原 昇	千葉県白井市	412 人
19		一般男子 (60 歳以上)	眞淵 和幸	大田原市	151 人
20	ハーフ マラソン	一般女子 (高校生～39 歳)	杉原 有美	東京都墨田区	26 人
21		一般女子 (40～59 歳)	手塚 貴子	真岡市	26 人
22		一般女子 (60 歳以上)	堀 千秋	山形県上山市	8 人
23		一般男子 (高校生～39 歳)	吉岡 龍一	宇都宮市	157 人
24		一般男子 (40～59 歳)	村瀬 雅人	高根沢町	346 人
25		一般男子 (60 歳以上)	加藤 靖和	群馬県富岡市	113 人
					4,007 人

※大会参加者の記録は、宇都宮マラソン大会ホームページに掲載

## 第61回宇都宮市民スポーツ大会の結果について

### 1 大会概要

- (1) 日 時 令和5年9月17日～10月29日中の土曜日・日曜日  
うち5日間実施
- (2) 会 場 市体育館ほか10会場
- (3) 種 目 12競技14種目
- (4) 参加状況 38/39地区 2,573人(令和4年度 1,999人)

### 2 大会結果

総合優勝 豊郷地区  
準優勝 清原地区  
第3位 宝木地区

種 目	地区数	人 数	優 勝	準優勝	第3位	
1 軟式野球	18	333	清原	桜	錦	中央
2 ソフトテニス	11	171	横川	宝木	国本	
3 バレーボール 女子	14	200	清原	横川	石井	河内
4 バレーボール 男子	9	120	清原	富士見	姿川	今泉
5 卓球	18	215	富士見	豊郷	横川	
6 弓道	17	75	姿川	富士見	宝木	横川
7 剣道	7	44	緑が丘	城山		
8 バドミントン	23	280	豊郷	陽東	宝木	城東
9 ソフトボール 壮年男子	21	346	宮の原	細谷・上戸祭	篠井	御幸
10 ソフトボール 実年男子	11	178	陽東	豊郷	陽光	石井
11 サッカー	11	213	泉が丘	宝木	陽南	豊郷
12 バスケットボール 男子	9	134	御幸	中央	石井	豊郷
13 グラウンドゴルフ	26	182	雀宮	国本	横川	
14 ゴルフ	15	82	中央	清原	瑞穂野	
総合成績 (総合得点)	延べ 210地区	2,573人	豊郷 (57点)	清原 (56点)	宝木 (44点)	

### 3 今年度の総括と来年度に向けた取組

#### (1) 今年度の総括

- 各競技団体や地区スポーツ協会と連携し、大会運営を行い、大きな混乱や怪我人等もなく、大会を開催できた。
- 昨年度は、新型コロナウイルス感染症への懸念から、参加地区・人数が大幅に減少したが、今年度は参加地区・人数ともに、増加した。

#### (2) 来年度に向けた取組

コロナ禍以前も参加者の減少傾向があり、今回、令和元年度の参加地区・人数には満たなかったため(令和元年実施状況:延べ310地区, 3,817人)、今後は開催方法等についても検討する必要がある。